

副典獄 掌典獄ニ亞シ

書記 各其主務ニ従事ス

看守長 監獄ノ戒護ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

看守 監獄ノ戒護ニ従事ス

○第二十號 三月廿一日 官省院使廳府縣

宮内省中門監長以下ヲ置キ官等俸給左之通相定候條此旨相違候事

門監長 十等以下十三等以上

門監 十七等

門部 等 外(月給十圓以下七圓以上)

○第二十一號 三月廿一日 官省院使廳府縣

明治十三年(十二月)第六十四號達皇居諸門規則中左之通改正來ル四月一日ヨリ施行候

條此旨相違候事

第一條中 第一 皇居正門(表門)皇居正門ハ車駕ノ出入スル所ナリ故ニ皇族ハ常ニ此門ヲ通行ス

朝拜參賀ニ付該官員辟香間詰非役有位有勳ノ者禮服着用ノ節并ニ外國人參内スル者ニ限り其通行ヲ許ス(但乘車馬ヲ用フルハ従前ノ成規ニ據ル(以下ノ諸門皆同シ))

第二條 皇后ノ諸門ハ近衛兵其守衛ヲ掌ルト雖モ出入其門鑑ヲ檢査セシムル爲メ別ニ

宮内省ヨリ門部ヲ置ク

第三條 門部ハ出入門鑑ヲ檢査スルノ際其通行人ニ於テ非違暴行ノ所爲ニ涉ル者アル時ハ直チニ該門ノ守衛兵ニ引渡スヘシ

第四條 外郭諸門出入ノ際大禮服着用ノ者及ヒ勳章掛帶ノ者并ニ軍人警察官制服着用ノ者ハ其門鑑ヲ要セズ

但大臣參議諸省ノ卿ハ常服着用ノ時ト雖モ其姓名ヲ告ケテ出入スルヲ得

○第二十二號 三月二十一日 官省院使廳府縣

陸軍憲兵服制別冊之通り相定候條此旨相違候事

陸軍憲兵服制圖例

將校正服(本例中客シテ載セサルモノハ渾テ陸軍服制圖及圖例ヲ參觀スヘシ)

以下之ニ做フ)

帽(正軍服用)諸將校正帽ニ同シ但其色ヲ萌黃トス(形狀如圖)

衣袴 步兵將校正衣袴ニ同シ

同軍服 帽 衣袴 步兵將校軍衣袴ニ同シ

同懸章 憲兵將校ハ正軍服ニ論ナク常ニ懸章ヲ佩用スルヲ法トス

品質 毛或ハ絹糸打紐其他飾結ニ同シ 色萌黃(形狀如圖)

同軍刀 步兵將校ニ同シ

同外套 諸將校ニ同シ但袖口ハ緋色トス(形狀如圖)

下副官帽正服

帽(正軍服兼用)諸兵下副官正帽ニ同シ但其色ヲ萌黃トス(形狀如圖)

衣袴 步兵下副官正衣袴ニ同シ

同軍刀 帽 衣袴 步兵下副官軍衣袴ニ同シ

同外套 諸兵下副官ニ同シ但袖口ハ緋色トス(形狀如圖)

下士服

帽 地質絨色萌黃 縱橫線章 橫線ハ毛糸打紐(色緋幅一分)ニシテ各差アリ

曹長ハ四條(幾條ト記スルハ帽ノ上部ト下部トコアル一線ヲ合セ數フ以下皆之ニ做フ)

軍曹ハ三條伍長ハ二條トス縱線亦橫線ニ同シテ上方ニ向テ各部斜ニ一條ヲ附ス(但

各線間隙ハ縫線ノ橫線ノ外各一分トス) 頂上章 環狀小線ノ内ニ星章一個ヲ附ス

眼庇黑色革 前章 眞鍮日章(徑一寸五分) 頂紐 將校ノ製ニ同シ但其金具ヲ銅ト

ス(形狀如圖)

衣 地質大絨 色紺 襟 無章 袖章 緋毛糸織ニシテ各差アリ

曹長ハ大線(幅一寸)小線(幅五分)ニ 軍曹ハ大線一小線一

伍長ハ大線一線ヲ附ス(但各線間ハ各一分トス) 縁邊黑毛織(幅五分) 物入左衽ノ裏

面ニ一個ヲ附ス 縫製(形狀如圖)

袴 地質大絨大絨或ハ綾小倉 色紺 側章 緋毛織(幅五分)縫製(形狀如圖) (四十

年第七十六號達) 以文中改正)

兵卒服

帽 下士ニ同シ但其異ナルモノ左ノ如シ

橫章 縱際ノ線一條トス 前章 銅日章(徑一寸五分)(形狀如圖)

衣 地質綾小倉大織或ハ綾小倉 色紺 襟 無章 袖章 緋毛糸織小線(幅五分)

一條ヲ附ス

物入下士ニ同シ 縫製(形狀如圖)(十四年第七十六號)
(達ヲ以文中改正)

下士卒外套

諸兵下士卒ニ同シ但袖口ヲ緋色トス(形狀如圖)

同夏服 諸兵士卒ニ同シ但袖口ヲ緋色トシ卒ハ黃色ノ喰出シノ細線ヲ附セス

同帽 日覆 地質白雲齋 縫製(形狀如圖) (以下服製圖之ヲ略ス)

○第二十三號 三月廿六日 官省院使府縣

警視廳消防少司令月給左ノ通リ改定候條此旨相達候事

少司令

一等

貳拾圓

二等

拾五圓

三等

拾圓

○第二十四號 三月廿九日 官省院使廳府縣

今般文部省中ニ内記局設置候條此旨相達候事

○第二十五號 四月七日 官省院使廳府縣

今般農商務省ヲ設置シ職制並ニ事務章程別冊ノ通相定候條此旨相達候事

農商務省職制並ニ事務章程

卿

第一 農業商業工作技術漁獵商船海員(海軍所管ノ軍人ヲ除ク)發明商標度量衡開

墾牧畜勸植物ノ育種獸醫會社(銀行礦山鐵道燈臺電信會社ヲ除ク)山林驛遞ニ關

スル法令ノ施行ヲ保持監督ス(十四年第七十八號)
(達ヲ以文中追加)

第二 官設農商工ノ諸學校(工部省工部學校ヲ除ク)農工業模範ノ建造物及ヒ博物

館(從前內務省所管ノ分ニ限ル)ヲ管理シ民立農商工ノ諸學校ヲ監督ス

第三 商法會議所及農工業ニ關スル議會米商會社株式取引所ヲ管轄ス

第四 博覽會競進會博物ノ保存農商業工作技術ノ改良妨害其器具ノ改良試驗地質調査ノ結果等ニ因リ農商工ノ改進勸勵ニ關スル事務ヲ管理ス

第五 驛遞官ヲ統率シ驛遞及ヒ郵便爲換貯金預リノ事務ヲ總判ス

第六 官有ノ山林ヲ管轄シ其保護栽培伐木ニ係ル事務ヲ統理シ私有ノ山林保護栽培伐木ノ方ヲ監督ス

第七 一般ノ統計表編製ノ際ニ供スルタメ農商工ノ盛衰郵便ノ増減物價ノ高低内外貿易ノ景況及ヒ山林ノ調査等ニ關スル文書ヲ採集ス

第八 部下ノ官員奏任以上ノ進退黜陟ヲ上請シ其他ノ屬官ハ之ヲ判任ス

第九 主管ノ事務ニ付テハ地方ニ向テ命令訓狀ヲ下ヌヲ得

第十 省中各局長ノ任免ハ之ヲ上請シ省中ノ官員ニ課長以下ノ課務ヲ命スルヲ得但局中ニ課ヲ置キ課中ニ掛ヲ置キ及各局處務規程ヲ創設シ若クハ之ヲ改正シ及ヒ主管ノ事務ニ付人民ニ布達セントスルトキハ上請裁可ノ上之ヲ處辨スルヲ得
第十一 主管ノ事務ニ付法律規則ヲ設ケ又ハ其補正ヲ要スルコトアル時ハ其意見

ヲ具狀スルヲ得

第十二 省中奏任以上ノ官員ヲ内地ニ派遣シ若クハ在勤セシムルコトヲ得但之ヲ外國ニ派遣シ及外國人ヲ雇役シ若クハ解僱セントスルトキハ上請裁可ノ上之ヲ決行スヘキモノトス

第十三 施行ノ任アル法律ノ制定若クハ改正ニ就テハ元老院ノ會議ニ附シテ辨論スルコトヲ得

大輔

少輔

卿ノ職掌ヲ輔ケ卿事故アルトキハ其代理ヲナスヲ得

大書記官

權大書記官

少書記官

權少書記官

卿ノ命ヲ受ケ卿管掌事務ノ一部ヲ幹理ス

屬（一等ヨリ十等ニ至ル）書記官ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

農商務省事務章程

第一條 農商務卿管掌ノ事務ハ左ノ諸局并ニ會議委員ニ分任シテ整理審議スヘキモノトス

- 一書記局
- 二農務局
- 三商務局
- 四工務局
- 五山林局

- 六驛遞局
- 七博物館
- 八會計局
- 九農商工上等會議

第二條 書記官ハ卿補官房ノ事務官印ノ監守公文ノ往復職員記録其他々局ノ主務ニ屬セサル事務ヲ調理ス

第三條 農務局ハ勸農漁獵開墾地質調査農學學校農業上ノ建造物農業上統計ニ關スル文書ノ採集及ヒ農業議會ニ關スル事務ヲ調理ス

第四條 商務局ハ勸商會社度量衡商船海員商業上ノ統計ニ關スル文書ノ採集及ヒ商法會議所ニ關スル事務ヲ調理ス

第五條 工務局ハ勸工發明品ノ專賣免許商標工學校工作上ノ建造物工作上ノ統計ニ關スル文書ノ採集及ヒ工作技術ノ議會ニ關スル事務ヲ調理ス

第六條 山林局ハ官有私有山林ノ保護栽培伐木等山林ニ關スル一切ノ事務ヲ調理ス

第七條 博物館ハ古器物ノ保存美術ノ勸奨ニ關スル事務ヲ調理シ博物館ヲ管掌ス

第八條 驛遞局ハ驛遞郵便爲換貯金預リニ關スル一切ノ事務ヲ調理ス

第九條 會計局ハ各局經費ノ出納所要物品ノ購入及ヒ交付等會計ニ關スル一切ノ事務ヲ調理ス

第十條 農商工上等會議ハ臨時若シハ定期農商卿ノ招集ヲ以テ之ヲ開キ太政官若シハ農商務卿ヨリ諮詢スル農商工ノ利害ニ關スル事件ヲ審議スルモノトシ其會員ハ兼テ太政官ヨリ之ヲ命ジ農商務卿ヲ以テ其議長トス

第十一條 農商工上等會議ノ議件擔當ノ事務ニ關係アルハ參議各省使長官及其代理人ハ會議ニ出席シテ辨論スルヲ得

第十二條 農商工上等會員ハ宣任ノ其事務ヲ農商工ノ三部ニ分テ任シ農商務卿ハ其

一部ノ會員ノミヲ招集シ若シハ三部ノ會員ヲ同時ニ招集スルヲ得

第十三條 農商工上等會議ノ書記ハ農商務卿之ヲ命ス

第十四條 農商工上等會議ニ諮詢スヘキ事件及該會員選擇方法其他ノ細則ハ別段ノ達

ヲ以テ之ヲ定ムベシ

(備考)十四年四月七日第二十一號御布告ヲ以當省設置(本號ニ載ス)

○第二十六號 四月七日 官省院使廳府縣

今般農商務省設置ニ付内務大藏兩省中諸局ノ管理換へ其他別紙ノ通ニ兩省ニ相達候條
爲心得此旨相達候事

内務省

今般農商務省設置候ニ付テハ其省中左ノ通諸局ノ管理換へ并ニ廢止致シ候條此旨相達
候事

一 驛遞局山林局博物館及所屬博物館ハ舉ケテ農商務省ニ管理ニ付シ候條其事務悉皆該
省ニ引繼クヘシ

一 勸農局相廢シ候條其事務ハ農商務省職制並ニ事務章程ニ照シ夫々該省ニ引繼クヘシ
而シテ猶殘餘ノ事務ハ其省ニ於テ此際完結ノ見込ヲ以テ處分方(其完結ニ至リ難キ分
ハ他ノ局課等ニ管理方)取調詳細申出ヘシ此旨相達候事

大藏省

今般農商務省設置候ニ付テハ其省中商務局相廢候條其事務ハ農商務省職制並ニ事務章
程ニ照シ夫々該省ニ引繼クヘシ而シテ猶殘餘ノ事務ハ其省ニ於テ此際完結ノ見込ヲ以
テ處分方(其完結ニ至リ難キ分ハ他ノ局課等ニ管理方)取調詳細申出ヘシ此旨相達候
事

○第二十七號 四月十四日 府縣(東京府ヲ除ク)

明治九年(八月)第八十號達巡查旅費日當表中滯留日當之額左之通改正候條來ル五月一
日ヨリ施行可致此旨相達候事

但地方ノ見込ヲ以テ適宜減省候儀ハ苦シカラス

滯留三十五錢

(府縣管内滯留)三十錢

○第二十八號 四月十五日 府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)

本年(二月)第十六號布告第二條地方稅支出高十分ノ三トアルハ警察費總高ノ内第三條費用ヲ除キ餘ル金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相達候事

○第二十九號 四月十八日 官省院使廳府縣

農商務省ハ文部省ノ次ニ列シ候條此旨相達候事

○第三十號 四月十九日 府 縣

明治八年(四月)第四十九號達廢止候條流行病ノ節貧民救療ニ係ル費用ハ明治十四年度以降地方稅中衛生費ヲ以テ支辨可致此旨相達候事

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニヨリ官費支給スルコトアルヘシ

○第三十一號 四月二十日 府 縣

海軍省職制及事務章程第二章第七條及第十一條左之通改正候條此旨相達候事

第七條 將官ニ職課ヲ命メ及ヒ局長官麻長艦船長ヲ命メ又ハ之ヲ免スル事

第十一條 軍律内ノ條款ヲ改正スル事

○第三十二號 四月廿六日 各府縣

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製造費ノ儀ハ自今明治十三年(四月)第拾六號布告第三條第七項ノ内ニ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○第三十三號 四月廿八日 官省院使廳府縣

會計法別冊ノ通相定候條此旨相達候事

會計法

第一章 總 則

第一條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ是ニ據テ出納シ決算ニ結了ス

會計年度

第二條 會計年度ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ルヲ以テ一週年トシ甲年ノ

收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

歲計區分

第三條 歲計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トシ常用準備ヲ分テ各歲入歲出ノ二部トス

第四條 常用ノ歳入出ハ經常臨時ノ二部ニ區分シ準備ノ歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス

歳入出科目

第五條 歳入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治十四年(四月)第三十四號達ニ據ルヘシ

第六條 歳出科目ヲ分テ大科目中科目小科目細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科目ノ解疏ハ明治十二年(十二月)第五十號達ニ據ルヘシ

第二章 歳入出豫算

第七條 歳入出豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大藏省之ヲ調理統計ニ會計検査院ノ審査ヲ經内閣ニ於テ決定ス

豫算ノ調理

第八條 各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調整シ各科目ニ就キ其員額ヲ掲以テ前々年度ノ實額及前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ但豫算調書々式ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 各廳(府縣ヲ除ク)ハ前年度十二月廿日迄ニ其豫算調書ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
第十條 府縣ハ國庫ノ收支ニ係ル歳入出豫算ヲ調整シ前年度十二月廿日迄ニ該廳ヲ發シ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第十一條 大藏省ハ前數條ノ豫算調書ヲ以テ統計豫算書ヲ調整シ豫算調書ト共ニ四月十日迄ニ太政官ヘ進達シ太政官ハ直ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十二條 大藏省ハ統計豫算書調理ノ際其増減ヲ要スルモノハ各廳開申ノ事山ト大藏卿ノ意見トヲ詳記シ統計豫算書ト共ニ之ヲ太政官ヘ進達スヘシ太政官ヨリ之ヲ會計検査院ヘ送付スルコト前條ニ同シ

第十三條 會計検査院ハ豫算調書統計豫算書及ヒ大藏卿ノ意見書審査ノ爲メ四月十五日ヨリ検査官ノ會議ヲ開キ五月廿日限リ之ヲ議了シ直ニ太政官ヘ進達スヘシ

第十四條 太政官ニ於テハ會計検査院ヨリ進達シタル豫算書ヲ審議シ六月五日迄ニ之ヲ決定スヘシ

費額ノ流用歳入出ノ増減

第十五條 各廳(府縣ヲ除ク)ニ於テ豫算上決定シタル小科目以上ノ費額ハ太政官ノ特別ノ許可ヲ得ルコアラサレハ彼此流用スルヲ得ス太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大藏省ニ通知スヘシ

第十六條 府縣ニ於テ小科目以上ノ流用ヲ要スル時ハ其事由ヲ大藏卿ニ具シ其許可ヲ請クヘシ大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ニ通知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨時ノ増費ヲ要スル時ハ其事由ヲ太政官ニ具申シテ許可ヲ請クヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及大藏省ニ通知スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル時ハ其事由ヲ大藏省ニ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ具申シテ其許可ヲ請クヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ニ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル時ハ之ヲ大藏省ニ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ上申シ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 金銭ノ出納

第二十條 凡ソ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルモノトス但常例ノ出納ハ其時々命令ヲ要セス會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルヲ得

記簿

第二十一條 凡出納ノ記簿ハ複記式ヲ用フヘシ若シ其式樣ヲ變更セントスル時ハ會計検査員ノ承認ヲ請クヘシ

第二十二條 記簿ハ長官ノ命令書若クハ會計主務官吏ノ調書ヲ憑據トシテ之レカ記入ヲ爲スヘシ

第二十三條 記簿ノ重要ナルモノハ日記簿原簿現金受拂簿豫算簿ノ四種トス其補助簿ヲ設クルハ各廳ノ便宜ニ任ス

第二十四條 前條四種ノ簿ヲ取捨シ及ヒ補助簿ヲ設クルハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

國庫出納

第廿五條 國庫ノ出納ハ別段ノ出納定規ニ據リ大藏卿之ヲ管理ス

第廿六條 歳入ハ法律規則ニ指定セシ期限ニ據テ之ヲ收入スヘシ

第廿七條 歳出中通常ノ費途ハ各廳(使府縣ヲ除ク)ハ其年額ヲ十二分ニ使府縣ハ之ヲ

四分シ在外公館ハ之ヲ二分シ其他ハ實際支消スヘキ時ニ臨ミ交付スヘシ

第廿八條 大藏省ハ國庫ニ於テ日々出納スル所ノ金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎翌日

會計検査院ニ報告スヘシ

第廿九條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生ゼシ時ハ之ヲ準備金ニ繰入スヘシ

各廳ノ出納

第三十條 各廳ノ歳入ハ各部ノ收額ヲ本廳ニ採集シテ之ヲ大藏省ニ納付シ且ツ歳出ハ

大藏省ヨリ本廳ニ受領シテ之ヲ各部ニ分賦スヘシ

第卅一條 各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直ニ歳出ニ移用スルヲ得ス

第卅二條 各廳ハ經費決算ニ際シ其殘餘アル時ハ大藏省ニ還納スヘシ

第卅三條 各廳現金及ヒ物品ノ管守并ニ其出納ハ該廳會計主務官吏ヲシテ之ヲ掌トラ

シムヘシ

第卅四條 現金ノ管守出納ヲ銀行等ニ掌トラシムル時ハ成規ニ依リ抵當品ヲ差出サシ

ムヘシ

作業費ノ出納

第卅五條 作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區分シ興業費ハ之ヲ歳出ニ編入シ營業

費ハ工事開始ノ際資本金額ヲ定メ之ヲ貸與スヘシ

第卅六條 營業資本金ハ營業上諸般ノ費途ヲ辨シ其回收ノ金額ヲ以テ之ヲ償還シ其餘

ハ益金トシテ之ヲ大藏省ニ收入ス若シ營業資本ニ不足ヲ生スル時ハ更ニ歳入ヨリ之

ヲ補填スヘシ

出納勘定帳

第卅七條 各廳ニ於テハ毎年度ノ收入ト經費トヲ分テ其精算ノ既濟ヲ區別シ官省院廳

局ハ毎月使府縣ハ每三ヶ月在外公館ハ每六ヶ月出納勘定帳ヲ翌月二十日迄ニ調査シ

之ヲ會計検査院及大藏省ニ送付スヘシ

第卅八條 大藏省ハ每三ヶ月租稅勘定帳ヲ編成シテ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ

第卅九條 大藏省ハ每三ヶ月國債償還紙幣支消準備金ノ收支起業基金ノ受拂及貸付金繰替金返納等ノ勘定帳ヲ調製シ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ

出納ノ開閉

第四十條 一週年度ノ出納ハ七月一日ニ於テ之ヲ開始シ該年度經過ノ後八ヶ月ヲ限リ之ヲ閉鎖スヘシ

第四十一條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收入支出ノ決算ニ至ラサルモノアルハ其事由ヲ會計検査院及ヒ大藏省ヘ開申シ翌年度ニ於テ其決算ヲナスヘシ

第四十二條 出納閉鎖ノ後帳簿ノ検査上ヨリ差違ヲ生スル時ハ其額ニ限リ閉鎖後四ヶ月以内ハ之ヲ出納スルヲ得ヘシ

第四十三條 各廳金錢出納ノ細則ハ其長官ノ上請ニ依リ別ニ之ヲ定ムヘシ

第四章 歳入出決算

第四十四條 凡ソ歳入出ノ決算ハ各廳収支ノ決算額ヲ會計検査院ニ證明シ太政官ヨリ之ヲ公達スヘキモノトス

第四十五條 歳入出ノ決算ハ歳入ニ於テハ現金ヲ大藏省ヘ納付シ其領収書ニ據リ歳出ニ於テハ現金ヲ正當ノ請取人ニ交付シ其領収證書ニ據リ其他ノ歳出ニ屬スヘキモノハ其文書ニ據テ之ヲ爲スヘシ

第四十六條 各廳經費中建築等ノ費項ニシテ該年度最初決定ノ豫算書ニ科目金額ヲ明載シ既ニ着手セシモノ事故アリテ豫算ノ如ク竣成ニ至ラズ翌年度ニ跨ルノ類ニ限リ三ヶ月間決算ヲ延期スヘシ其延期ヲ要スルモノハ事由ヲ具シ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ但豫算算定ノ後他費流用又ハ増費等ヲ以テ起業セシモノハ第二條ニ據リ六月三十日ヲ以テ決算スヘシ

國庫出納決算

第四十七條 大藏省ハ每會計年度國庫ノ出納決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後六ヶ月限リ會計検査院ヘ差出スヘシ

第四十八條 租稅徵收ノ任アル各廳ハ法律規則ニ指定シタル各種租稅ノ皆納期限後四ヶ月以内ニ皆濟帳ヲ作り之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

各廳出納ノ決算

第四十九條 各廳ハ每會計年度作業益金及ヒ雜收入ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五ヶ月限り會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十條 各廳ハ每會計年度諸經費ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五ヶ月限り會計検査院ヘ差出スヘシ

第五章 雜則

準備金ノ管理

第五十一條 準備金ハ其管理ノ規程ニ據リ大藏卿之ヲ等理ス

諸報告

第五十二條 大藏省ニ於テハ每日常用金ノ在高其種類ノ内譯及ヒ國債額準備金起業基金貸附金預ケ金并其抵當品假納金預リ金等ノ増減及ヒ種類ノ内譯表ヲ調製シ翌月七日迄ニ會計検査院ヘ報告スヘシ

日迄ニ會計検査院ヘ報告スヘシ

第五十三條 大藏省ハ每會計年度末ニ於テ該年度ニ屬スル收支ヲ概定セシカ爲メ其現出納及ヒ將來収支スヘキ員額ヲ調埋シテ歲入出概定表ヲ製シ翌年度八月廿五日マテニ太政官ヘ進達スヘシ

第五十四條 製造場等ヲ管スル各廳ハ每會計年其作業ノ損益及ヒ資本金償却等ノ計算報告書ヲ作り決算報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第五十五條 各廳ハ本廳及ヒ各部局ニ供用スヘキ諸物品ノ出納ヲ每三ヶ月ニ區分シ其決算表ヲ翌月廿日マテニ調製シ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第五十六條 各廳ハ本廳及ヒ各部局所管ノ地所家屋其他官有財産ノ種類ヲ分テ計算表ヲ製シ毎年大藏省ヘ送付シ其増減アルトキハ其ノ時々之ヲ通知スヘシ大藏省ハ之ニ總計表ヲ添付シ翌年會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十七條 各府縣ハ定規ニ依リ地方稅收入支出ノ豫算及ヒ決算報告書ヲ製シ内務大藏兩省ヘ進達シ内務大藏兩省ニ於テハ査閱承認ノ上總計表ヲ添付シ會計検査院ヘ報

告スヘシ

第五十八條 凡ソ官金ノ樂捐ヲナサントスルモ其狀ヲ具シ太政官ノ裁可ヲ請フヘシ
太政官ニ於テ之ヲ許可セシモ其會計檢査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第五十九條 豫算調書統計豫算書決算書報告書出納記簿ハ會計檢査院及派出檢査官ヘ
差出シタル後其改削塗抹ヲ爲スヘカラス但檢査官ノ承認ヲ得タルモノハ此限ヨアラ
ズ

第六十條 各廳并諸製造場等ノ物品會計ノ細則ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第六十一條 此法ニ矛盾スル從前ノ法規ハ廢止トス

第三十四號 四月廿八日 官省院使廳府縣
歲入科目別冊ノ通相定候條此旨相達候事

歲入科目表 租税ノ部

大科目 小科目

海關稅

畑稅

郡材宅地稅

山林原野牧場稅

海關輸出稅

海關輸入稅

海關諸收入

地稅

田稅

鐵山稅

北海道物產稅

酒造稅

免許稅

造石稅

醫藥營業稅

烟草稅

營業稅

市街地稅

温冷泉稅

池沼稅

地券贖印稅

延納年賦

文通用紙稅

代言免許稅

船稅

蒸氣船稅

西洋形風帆船稅

舩漁船並海川小回船稅

車稅

馬車稅

證券印紙諸稅
 印紙稅
 印紙稅
 界紙稅
 押印稅
 郵便稅
 切手賣下稅
 外國郵便遞送稅
 私書函稅
 為換手數料
 訴訟紙諸稅
 訴訟用紙稅
 裁許用紙稅

人力車稅
 牛車稅
 荷車稅
 會社稅
 國立銀行稅
 米商會所稅
 株式取引稅
 銃獵稅
 遊獵稅
 職獵稅
 牛馬買賣免許稅
 賣藥稅
 營業稅

度量衡稅
 請賣鑑札稅
 尺度稅
 樹量稅
 權衡稅
 版權免許稅
 海外旅券其他免許手數料
 作業益金ノ部
 某廳何々益金
 某所
 雜收入ノ部
 森林收入
 森林諸拂下代

家屋貸下料
 物品貸下料
 開(市港)場官地貸下代
 雜入
 贖贖追徵金
 徵兵代人料
 雜収
 諸返納ノ部
 諸貸出金返納
 救助貸返納
 勸業貸返納
 外國債代償追徵金
 官方及舊藩々貸金返納

森林諸貸下代
官有物拂下代

宮方貸金返納
藩々貸金返納

地所貸下料

石高貸下返納

○第三十五號 四月廿八日 官省院使廳府縣

會計檢査院職制章程別冊之通改正候條此旨相達候事

會計檢査院職制

長 (二等官)

本院ノ官吏ヲ統率シテ主管百般ノ事務ヲ總理ス

本院官吏ノ進退黜陟奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

副長 (三等官)

職掌長ニ亞ク

以上勅任

一等檢査官

二等檢査官

三等檢査官

四等檢査官

官金及ヒ物品ノ出納官有財産管理方法ノ監査歲計ノ豫算ニ係ル事務ヲ分任シ會

計主務官吏懲戒ノ斷案ヲ調査ス

定員十名

大書記官

權大書記官

少書記官

權少書記官

院長 官房ノ事務及院中ノ庶務會計記錄ヲ幹理ス。大少書記官ノ内貳名ヲ定員トス。

以上奏任

檢査官補 (相當八等ヨリ十七等ニ至ル)

檢査官ニ屬シ檢査ノ事務ニ從事ス

檢査官事故アルトキハ其事務ヲ代理スルヲ得

定員七十五名

屬 (相當八等ヨリ十七等ニ至ル)

書記官ニ屬シ文書計算ノ事務ニ從事ス

會計檢査院章程

第一條 會計檢査院ハ政府ノ歲計ヲ審查監督シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條 歲入出豫算ノ當否ヲ審查シ其意見ヲ内閣ニ具申ス

第三條 官金及ヒ物品ノ出納官有財産管理ノ方法ヲ監査ス

第四條 會計檢査上ニ於テ各事業ノ審查ヲ要スル時ハ其實況ヲ視察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルヲ得

第五條 國庫及ヒ各廳收支ノ決算ヲ審查判定シ當該會計官吏ニ向テ決算ノ狀ヲ宣告ス

第六條 前條ニ依リ爲シタル宣告ハ終審ノモノトス但内閣ニ於テ其宣告ヲ不當ト認メ

タル時ハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命ジテ審理セシムルヲ得

第七條 歳入出決算ノ報告及ヒ行務ノ年報ヲ調整シ之ヲ内閣ニ進呈ス

第八條 會計ニ關スル法律規則及ヒ院中處務課程ノ制定釐革ニ付其意見ヲ内閣ニ建議

スルヲ得

第九條 會計ニ關スル法規ノ款條ヲ辨明シ之ヲ各處ニ通知スルヲ得

第十條 地方稅收入支出ノ豫算及ヒ決算報告ヲ査閱ス

第十一條 會計主務官吏會計ノ法規ニ違フタル時ハ懲戒ノ斷案ヲ草シ其奏任以上ノ係

ル者ハ内閣ニ上申シ其判任以下ノ係ル者ハ所屬長官ニ通報ス但刑法ニ明文アル者ハ

一面ヲ以テ之ヲ檢事ニ告知ス

第十二條 會計檢査院ヨリ發スル文書ハ院長ノ名ヲ以テシ其決算ノ狀ヲ宣告スルモノ

及ヒ懲戒ノ斷案ハ主任ノ檢査官之ニ連署ス

○第三十六號 四月三十日 官省院使廳府縣

今般會計法制定並ニ會計檢査院事務章程更定ニ付會計ノ事務上各廳長官ト會計主務官

吏トノ分掌方左ノ通相改候條此旨相達候事

第一條 各廳ノ長官ハ會計ノ法規ニ從ヒ會計主務官吏ニ向テ金錢及ヒ物品出納ノ命令

ヲ下シ該廳ノ歳入出豫算ヲ調整シ會計檢査院ニ向テ其決算ノ報告ヲ爲スヲ掌リ其決

算ニ就テノ責任ハ太政官ヨリ該年度政府ノ歳入出決算書ヲ公布シタルニ了ル

第二條 各廳ノ會計主務官吏ハ會計ノ法規ニ從ヒ金錢物品ノ管守及ヒ該廳長官ノ命令

ニ依リ金錢物品ノ現出納ヲ掌リ其出納上ノ算精ヲ會計檢査院ニ向テ證明シ其認可狀

ヲ得テ其責任ヲ了ル

第三條 各廳長官ハ便宜金錢物品収支命令ノ權ヲ部下ノ官吏ニ委ヌルヲ得

第四條 各廳會計主務官吏ハ其長官ノ上請ニ依リ太政官ヨリ之ヲ命ス但別ニ會計官吏

ノ制アルモノニ擔任ノ場所ヲ命シ及ヒ判任官ヲ以テ會計主務官吏ト爲シタルトキハ

會計檢査院ニ届出ヘシ

第五條 國庫ノ出納ハ別段ノ法規ニ依ル

○第三十七號 五月六日 官省院使府縣

官吏商業區分之儀ニ付テハ兼テ相達候趣モ有之候處自今道路河港ノ修築海陸ノ運輸土地ノ開墾及殖産ノ事業ヲ以テ目的ト爲シ設立スル會社ノ株主トナルハ不苦候條此旨相達候事

○第三十八號 五月六日 府 縣

明治十一年(七月)第三十二號達中府縣ノ事務主務ノ省ニ稟請シテ後ニ處分スヘキ條目ノ内第十一項ノ但書ヲ刪除シ左ノ一項ヲ追加候條此旨相達候事

第三十六 開墾地賦下十ヶ年荒地免稅五ヶ年ヨリ以上ノ年季ヲ付與スル事

但繼年季ヲ要スル時當初ヨリ通算シテ此年限ヲ越ユルモノモ本文ニ準ス

○第三十九號 五月十三日 官省院使府縣

陸軍職制并陸軍省職制事務章程中別冊之通改正候條此旨相達候事

陸軍職制中改正

第六條 參謀本部長ハ一殿ノ參謀將校ヲ統轄シ併セテ兵器ニ關スル圖誌ヲ總理ス

第八條 戰時ニ在テ親裁ノ軍令ハ直ニ師團長或ハ軍團長若クハ特命司令將官ニ下シ

帷幕ト相通報シテ問斷ナカフニシ

第九條中 (地理)ノ下(政誌)ノ二字ヲ加フ

第十條 (諸課ヲ置テ)ノ下(電信)ノ二字ヲ加フ(測量翻譯)ヲ(翻譯測量)ニ改ム

第十二條 以下各條中(監軍中將)ヲ(監軍部長)ニ改ム

第十三條中 (監軍中將ノ部内ニ各其幕僚參謀官)ヲ(各監軍部ニ幕僚諸官)ニ改ム

第十五條中 (參謀官)ヲ(諸官)ニ改ム

第十六條中 (委詳)以下二十三字ヲ刪ル

第十七條中 (科)ノ字及ヒ(科)ノ二字ヲ刪リ(科并)ヲ(尉官并)ニ改ム

第二十條中 (近衛)ノ下(コ)ノ字ヲ加ヘ(參謀官)ヲ諸官ニ改ム

第廿一條 凡參謀將校ハ參謀本部ニ服務シ或ハ侍中武官陸軍卿官房總務局并ニ監軍部

近衛鎮臺ノ幕僚ニ服務ス

第廿四條中 (科)ノ二字ヲ刪ル

第廿七條中 (科)ノ字及ヒ(科)ノノ二字ヲ刪リ(任ス)ノ下(ル)ノ字及ヒ(其參謀)ノ下(部)ノ字ヲ加フ

第三十三條中 (陸軍本病院)ヲ(東京陸軍病院)ニ改ム

第三十四條中 (近衛鎮臺ノ病院)ヲ(各地陸軍病院)ニ改メ(科)ノノ二字ヲ刪ル

第三十五條中及ヒ第三十七條中 (科)ノノ二字ヲ刪ル

第四十條中 (將校)ヲ(士官)ニ改ム

第四十一條 (等)ノ字ヲ刪ル

第四十二條中 (戶山學校及ヒ教導團ハ少將各一人)ヲ(戶山學校ハ少將一人教導團ハ大佐一人)ニ改ム

第四十三條中 (編製)ヲ(編制)ニ改ム

第四十五條中 (各科)ノノ二字ヲ刪ル

第四十條 (之ヲ砲工)ノ下(兵)ノ字ヲ加フ

第四十六條及第四十七條中 (釋)ノ字ヲ刪ル

第四十八條中 (砲工)ノ下(兵)ノ字ヲ加フ

第五十條 近衛各鎮臺ノ下ニ軍樂隊ヲ置キ音樂ノ事ニ從ハシム

陸軍省職制事務章程中改正

第一章

第十六條中 (軍醫總監)ヲ(軍醫本部長)ニ(馬醫監)ヲ(病馬廐長)ニ改ム

○第四十號 五月十三日 廳府縣

明治十二年(九月)第三十三號達鎮臺條例中別冊ノ通改正候條此旨相達候事

鎮臺條例中改正

第六條以下各條中 (監軍中將)ヲ(監軍部長)ニ改ム

第十三條中 (會同シ)ノ下(下士以下)ノ(五字)ヲ刪ル

第十四條 凡ソ毎年檢閲終ルノ後陸軍卿ハ參謀本部長各監軍部長近衛都督各軍管ノ司令官并ニ學校長ノ將官及ヒ總務局長會計局長軍醫本部長ヲ陸軍省内ニ會同シ將校拔擢進級ノ名簿ヲ撰定シ以テ次年拔擢進級ノ序ヲ定ム

第十六條中 (中將ハ)ヲ(部長ハ)ニ改メ(行下ス其)ノ下(哨所及ヒ)ノ四字ヲ刪ル

第十八條 凡ソ憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣ニ配置シ巡案檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ

視察シ行政警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼ス但其隸屬ノ法ハ軍管ノ司令官ニ屬セスシテ

直チニ陸軍卿ニ隸ス

第二十二條中及ヒ第二十三條中 (操練)ヲ(演習)ニ改ム

第二十五條中 (閱兵)ヲ(觀兵式)ニ改ム

第二十七條中 (府縣)ヲ(地方)ニ改ム

第四十一條中 (野營操練)ヲ(野營演習)ニ改ム

第四十三條中 (臺ヨリ)ノ下(憲兵部及ヒ)ノ五字ヲ加フ

第四十四條中 (一本ヲ臺ニ留メ一本ハ)ノ十字ヲ刪ル

第四十七條中 (監軍部)ヲ(會計部)ニ改ム

第五十條中 第一(祝砲)ノ下(五發)ノ二字ヲ加フ 第二(騎兵一大隊)ヲ(騎兵一中隊)ニ改ム

第三(郭)ヲ(市街)ニ改ム

改ム 第八鎮臺下所在ノ上等并ニ地方裁判所長トハ到着ノ日ヨリ三日内互ニ存問ス

(但同上)

同條中左ノ一項ヲ加フ第九管内所在ノ上等并ニ地方裁判所長トハ卅日内互ニ移文シテ存問スヘシ(但同上)

○第四十一號 五月十八日 官省院使廳府縣

官幣大社熱田神宮出雲大社兩社ニ權官司各一員ヲ置キ其官等ハ八等月俸二十圓ト相定候條此旨相達候事

○第四十二號 五月十九日 官省院廳府縣

陸軍服制中別冊ノ通改正候條此旨相達候事

軍服ノ部

第二項中(故)以下三十二字ヲ刪リ左ノ但書ヲ加フ 但軍服ニ正帽ヲ用フルモ亦妨ナ

軍帽地質絨、色紺、橫章、將官及相當官ハ大線(幅一寸七分、色白)一條ヲ附シ佐官及

當官ハ大小線(幅大七分小一分、色參謀科ハ白、各兵科ハ黃、近衛隊附各兵科ハ總ヲ緋、會計部ハ藍、軍醫馬醫部ハ萌黃)三條(各線間隙各一分)ヲ附シ尉官及相當官ハ大線(幅八分、色佐官及相當官ニ同シ)二條(間隙一分)ヲ附シ渾テ頂端ノ縫際ニ喰出シノ細線(將官ハ白、監督長ハ藍、軍醫總監ハ萌黃、其他ハ「大小線ノ色ニ準ス」ヲ附ス)、前章、將校ハ金色會計軍醫馬醫部ノ將校相當官ハ銀色ノ星章トス、眼底地質黒ノ色革ニシテ同色ノ革ヲ以テ縁邊ヲ附ス形狀如圖(圖略ス)

總則

(総製)ノ前ニ左ノ二項ヲ加フ 地質絨(但平帶ノ山務練兵等ハ勿論衛戍勤務隊中遇番及野營行軍演習等ニハ綾小倉ヲ用フルモ妨ナシ)、色黒或ハ紺 軍袴 正袴ニ同シ(但小倉織ヲ用ヒ妨ナキハ軍衣ノ例ニ同シ)

樂長及砲工兵上等護衛兵下副官軍服ノ部

軍帽地質絨色紺、横章、大線(幅一寸七分)色近衛下副官ハ緋其他ハ黃)一條及頂端ノ縫際ニ喰出シノ細線(大線ノ色ニ準ス)ヲ附ス、前章金色星章、眼底士官ニ同シ)但シ黒革

ノ縁邊ヲ附セサルヲ異ナリトス)形狀如圖(圖略ス) 軍袴 正袴ニ同シ(但綾小倉織ヲ用ヒ妨ケナキハ軍衣ノ例ニ同シ)

將校及相當官夏服ノ部

衣袴地質(白布)ノ下(或ハ白小倉織)ノ六字ヲ加フ

軍刀ノ部

歩兵科及參謀科ノ部中(曹長及無隊ノ下士)ヲ(兵步下副官)ニ改メ、但書中(以下及會計部下士)ノ八字ヲ刪ル 騎砲工輜重兵科ノ部中(下士)ヲ(下副官)ニ改メ、諸兵下副官ノ部中(水兵ノ下士ニ同シ)ノ八字ヲ刪ル

軍刀帶ノ部

砲工兵上等監護ノ部中(地質色下士ニ同シ)ヲ(地質單革、色、表黒、裏地色)ニ改メ、將校相當官并樂長及砲工兵上等監護諸兵下副官軍帽圖中(軍帽)ノ字ヲ(軍帽)ニ改メ、(鉢巻)ノ字ヲ(横章)ニ改メ、(砲工兵上等監護)ノ次ニ(諸兵下副官)ヲ加フ 樂長以下軍刀圖并軍刀解剖圖中(歩兵科會計部馬醫部下士)ヲ(歩兵下副官)ニ改メ、(騎砲工輜下士兵卒)

ヲ(騎砲工輜重大副官)ニ改ム

將校及相當官并ニ樂長及砲工兵上等監護諸兵下副官略帽ノ部

渾ヲ廢止ス

下士及兵卒軍刀帶刀劍緒ノ部

渾ヲ刪除ス

○第四十三號 五月廿一日 官省院使廳府縣

陸前國仙臺肥前國長崎大縣省出納届出張所當五月限り廢止候條此旨相達候事

○第四十四號 五月廿三日 官省院使廳府縣

農商務省章程第十四條ニ依リ農商工上等會議ニ付會員選托方法左ノ通相定候條此旨相達候事

第一條 内外貿易ノ條約關稅商法就中職工徒弟ノ契約商標專賣免許會社商船海員ニ關

スル諸法案并ニ山林ノ法案及海陸ノ運漕道路ノ開墾川渠ノ疏通港灣ノ修築地方稅ヲ以テ支辨スヘキ土木中國稅ヲ以テ補助セントスル者郵便電信線路ノ伸縮燈臺建設ノ

得失農商工ニ關スル統計其他ノ現況調査農商工學校勸業博覽所其他農商工模範建造物ノ設立美術改進ノ方法ハ該當ノ官廳ヨリ一應農商工上等會議ニ諮詢スヘキ者トス其他太政官若シハ農商務卿ヨリ諮詢シタル事件ヲ審議シ若クハ示命シタル取調ヲ爲スヘキ者トス

第二條 農商工上等會員ハ官省院使ノ官吏中ヨリ之ヲ選任シ農商務卿ハ時トシ各府縣農商工諮詢會及聯合區町村農商工議會ヨリ委員ヲ招集シ會員タラシムルヲ得但農商務省農商工務ノ三局長ハ當然會員タル者トス

第三條 農商工上等會員ノ任期ハ三ケ年トス但滿期再選スルコトアルヘシ

○第四十五號 五月廿三日 內務省農商務省府縣

今般第二十九號布告ヲ以テ農商工諮詢會規則制定候ニ付テハ將來府縣ニ於テ從事スヘキ勸業上ノ事業ハ成ルヘク該會ニ諮詢シテ其得失ヲ計リ從前施行シ來リ候モノモ此際深ク將來ノ得失各地ノ適應ヲ按シ存廢ノ目的相立勸業ノ方法一層改進候樣勉勵致スヘシ此旨相達候事

○第四十六號 五月廿四日 官省院使廳府縣

無等判任官以下席次左ノ通相定候條此旨相達候事

一無等判任官ト有等判任官トノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキ者ハ有等判任官ヲ以テ上席トス

一無等判任官中ノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキ者ハ任官ノ前後ニ依ル

無等准判任官ハ月俸ノ多寡ニ拘ハラズ判任官ノ次席トス其同官中ノ席次ハ前項ノ例

ニ同シ

無等等外吏及准等等外吏ハ前三項ノ例ニ同シ

布告達ニ於テ特ニ席次ノ定制アル者ハ前四項ノ例ニ在ラズ

○第四十七號 五月廿四日 使 府 縣

明治七年(十月)第百四十號達第二項但書刪除候條此旨相達候事

但行方知レサル船舶搜索ヲ要スル時ハ其管轄廳ヨリ最寄府縣ニ通牒搜索方依頼可致事

○第四十八號 五月廿六日 官省院使廳府縣

海軍省中ニ規程局設置候條此旨相達候事

○第四十九號 五月三十日 官省院使廳府縣

今般太政官中ニ統計院ヲ設置シ職制并ニ事務章程別冊ノ通相定候條此旨相達候事

統計院職制

院長 參議之ニ兼任ス 二等官 (十五年第十六號達ヲ以改正)

事務章程ニ掲ル諸件ヲ施行スルノ責ニ任ス

院中奏任以上ノ官員及ヒ統計委員ノ進退ヲ上請スルヲ得

院中判任以下ノ官員ヲ任免スルヲ得

院中ノ官員ヲ國內ニ派遣スルヲ得

統計委員ノ全數或ハ其幾名ヲ招集シテ委員會ヲ開クヲ得

幹事 四等官

院長ヲ輔ケ事務ヲ施行シ院長事故アルトキハ其代理者タルヲ得

大書記官 權大書記官 少書記官 權少書記官

院長ノ命ヲ受ケ事務ノ一部ヲ幹理ス

統計委員專ラ統計ニ關スル官廳ノ奏任官ヲシテ之ヲ兼務セシム

院長ノ尋問ニ對シテ意見ヲ述ヘ統計法ノ改良ヲ助ケル者トス

屬 上官ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

統計院事務章程

第一條 政治上其他諸般ノ事物ニ關スル統計表ヲ編製公布スル事

第二條 統計表ニ據テ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル事

第三條 統計表ノ格式ヲ定ムル事

第四條 統計表ヲ編製スルノ材料ヲ各官廳其他ヨリ徵集スル事

第五條 各官廳其他ヨリ徵集スル報告書ノ格式ヲ定ムル事

第六條 報告書及ヒ統計ノ材料徵集スルノ期限ヲ定ムル事

第七條 統計ニ關スル新古ノ書類ヲ集テ之ヲ保管スル事

第八條 各官廳ニ於テ編製スル統計區域ヲ定メ其統計表若シハ統計ニ關スル書類ノ格式ヲ改良セシムル事

式ヲ改良セシムル事

○第五十號 六月二日 官省院使廳府縣

明治九年(十月)第九十九號達陸軍武官恩給令第二十八條中年齡定限左ノ通改正候條此旨相達候事

會計監督 軍醫監 藥劑官 六十

參謀憲兵大中佐 會計副監督 軍醫正 藥劑生 馬醫監 五十七

步騎砲工輜重兵大中佐 參謀憲兵少佐 會計監督補 五十四

會計軍吏 軍醫 藥劑官 馬醫

步騎砲工輜重兵少佐 參謀憲兵大尉 會計軍吏副 軍醫副 五十一

藥劑副 馬醫副 砲工兵上等監護

步騎砲工輜重兵大尉 參謀中尉 憲兵中少尉 會計軍吏補

軍醫補 藥劑補 馬醫補 藥長 砲工兵監護 砲兵監守 四十八

砲兵監査	火工教頭	諸工長	諸工下長
步騎砲工輜重兵中少尉	憲兵下士	會計書記	監獄
看病人	馬醫生	樂次長	樂師
憲兵卒	會計卒	看病卒	樂手
步騎砲工輜重兵下士		看病卒	樂生
		步騎砲工輜重兵卒	

四十五
四十
三十五

○第五十一號 六月十五日 官省院使廳府縣

明治十年(八月)第五十八號達相應シ更ニ文部省所轄官立學校圖書館教育博物館職制及職員名稱等給左ノ通相定候條此旨相達候事

東京大學職制

總理 文部卿ノ命ヲ奉シ大學ノ事務ヲ總理ス大學及大學豫備門職員ヲ監督ス
 大學及大學豫備門職員奏任以上及ヒ判任助教教授教諭及ヒ助教諭ノ進退黜陟ハ之ヲ文部卿ニ具狀シ其他ノ判任以下ハ之ヲ專行ス
 事故アルトキハ奏任以上ノ職員ヲシテ其事務ヲ代理セシムルヲ得

長 總理ノ命ヲ受ケ一學部ノ事務ヲ幹理ス

教授 學生ノ教授ヲ掌ル

助教 教授ノ職掌ヲ助ク

書記 各庶務ニ従事ス

東京大學豫備門職制

長 總理ノ命ヲ受ケ豫備門ノ事務ヲ幹理ス

教諭 生徒ノ教諭ヲ掌ル

助教諭 教諭ノ職掌ヲ助ク

書記 各庶務ニ従事ス

外國語學校師範學校中學校職工學校職制

長 文部卿ノ命ヲ奉シ本校ノ事務ヲ幹理シ其職員ヲ監督ス
 判任以上ノ進退黜陟ハ文部卿ニ具狀シ等外以下ハ之ヲ專行ス
 事故アルトキハ奏任或ハ判任ノ職員ヲシテ其事務ヲ代理セシムルヲ得

教諭 生徒ノ教授ヲ掌ル

助教諭 教諭ノ職掌ヲ助シ

訓導 師範學校附属小學校生徒ノ訓導ヲ掌ル

書記 各庶務ニ従事ス

圖書館教育博物館職制

長 文部卿ノ命ヲ奉シ本館ノ事務ヲ幹理シ其職員ヲ監督ス

判任ノ進退黜陟ハ文部卿ニ具狀シ等外以下ハ之ヲ專行ス

事故アルトキハ判任ノ職員ヲシテ其事務ヲ代理セシムルヲ得

書記 各庶務ニ従事ス

總理	勅任	年俸	四千八百圓	四千二百圓	三千六百圓	三千圓
	奏任	年俸	三千圓	二千四百圓	二千圓	千八百圓
長	勅任	年俸	四千八百圓	四千二百圓	三千六百圓	三千圓
	奏任	年俸	三千圓	二千四百圓	二千圓	千八百圓
教授	勅任	年俸	四百圓	四百圓	三百六十圓	三百圓
	奏任	年俸	三百六十圓	三百圓	二百四十圓	二百圓

助教諭	奏任	年俸	千八百圓	千五百圓	千二百圓	九百六十圓
	判任	年俸	千二百圓	九百六十圓	八百四十圓	七百二十圓
教諭	奏任	年俸	三千圓	二千四百圓	二千圓	千八百圓
	判任	年俸	二千二百圓	九百六十圓	八百四十圓	七百二十圓
助教諭	判任	年俸	六百圓	五百四十圓	四百八十圓	四百二十圓
	判任	年俸	五百四十圓	四百八十圓	四百二十圓	三百六十圓
訓導	判任	年俸	五百圓	四百八十圓	四百六十圓	四百四十圓
	判任	年俸	四百圓	三百八十圓	三百六十圓	三百四十圓
書記	判任	年俸	一等ヨリ十等ニ至ル官等俸給屬ニ同シ			

總理ハ大學ノ総長ヲシテ長ハ大學各學部大學豫備門外國語學校師範學校中學校職工學校圖書館教育博物館ノ主長ナリ

教授助教諭ハ大學各學部ノ教員ニシテ教諭助教諭ハ大學豫備門外國語學校師範學校中

學校職工學校ノ教員ナリ訓導ハ師範學校附属小學校ノ教員ナリ

書記ハ校館ノ属員ナリ

○第五十二號 六月十五日 官省院使廳府縣
府縣立町村立學校職員名稱並ニ准官等左ノ通相定候條此旨相達候事

准官等	八等以下十等以上
師範學校 中學校	長
准官等	八等 九等 十等 十一等 十二等 十三等
師範學校 中學校	一等教諭 二等教諭 三等教諭 一等助教諭 二等助教諭 三等助教諭
准官等	十一等以下十三等以上
小學校	長
准官等	十一等 十二等 十三等 十四等 十五等 十六等 十七等
小學等	一等訓導 二等訓導 三等訓導 四等訓導 五等訓導 六等訓導 七等訓導

○第五十三號 六月十六日 官省院使廳府縣
各廳ヨリ我國在留各國公使ニ對スル公務ノ照會ハ外務卿ニ通牒シ外務卿ヨリ各公使ハ

照會候儀ト可相心得此旨相達候事

○第五十四號 六月廿二日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

各府縣豫備金ノ儀當十三年度限リ廢停候條右金額早々大藏省ニ返納可致此旨相達候事

○第五十五號 六月廿二日 官省院使廳府縣

今般第五十四號ヲ以テ府縣豫備金相應止候條各廳所管ノ費用是迄府縣ニ於テ繰替候分
ハ早々拂戻シ十四年度以降ハ其支拂ニ先テ交付スヘシ此旨相達候事

○第五十六號 六月廿四日 府 縣

明治八年(八月)第百三十五號達度量衡取締條例第十二條左ノ通改正候條本年七月一日
ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

第十二條 度量衡稅額ハ第十條揭示ノ通ニ付各器檢査ノ都度檢査印章打込濟ノ員數並
原價増價通價等ノ調書製作請負人ヨリ爲差出置キ左ノ區分ニ據リ税金取立ヘキ事

一月ヨリ分 其年七月十日限
六月マテ分
七月ヨリ分
十二月マテ分 翌年一月十日限

○第五拾七號 六月廿七日 官省院使廳府縣

大藏省中ニ會計局設置候條此旨相達候事

○第五十八號 六月廿八日 官省院使廳府縣

明治十三年(二月)第十一號達外國品購求規則及追加共十三年度限リ廢止候條此旨相達候事

○第五十九號 六月卅日 官省院使廳府縣

地租改正事務局本月三十日限リ相廢殘務之義ハ大藏省ニ於テ取扱候條此旨相達候事

○第六十號 七月二日 官省院使廳府縣

警視廳警察副使月給左之通改定候條此旨相達候事

警察副使 四十圓以下二十圓以上

○第六十一號 七月八日

官國幣社經費ノ額十三年度定額ヲ以テ十四年度以降据置候條右金額ヲ以テ一切ノ費用支辨可致尤利餘ノ金員ハ返納ニ不及据置拂ニ取計翌年度以降經費不足ノ節補充シ其他

左ノ通可相心得此旨相達候事

歳費定額相定ムルニ付テハ選宮諸費ヲ除クノ外増額スルヲ許サス但選宮諸費ハ要需ノ節事由ヲ具シ内務大藏兩省ヘ伺出ヘシ

小科目流用ハ申出ニ及バズ

豫算帳ハ爾後申牒スルニ及ハス尤小科目ヲ區分シタル仕譯書ヲ調製年々本廳豫算帳ト共ニ大藏省ヘ差出スヘシ

○第六十二號 七月九日 官省院使廳府縣

憲兵上長官以下提灯徽章左之通相定候條此旨相達候事

○第六十三號 七月十九日 府 縣

各府縣經費ノ内屬官俸給、廳費、沖繩縣廳費ヲ除ク(史誌編輯費、招魂社費、地籍編纂費、警察費(國庫下渡ニ係ル分)ノ六項ハ會法第卅二條ニ拘ハラズ)殘餘アラハ据置翌年度ノ該費ニ充用スヘシ此旨相達候事

○第六十四號 七月廿二日 内務省開拓使警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

在監八備工錢規則ヲ定ム(十四年第八十一號達ヲ以廢止)

○第六十五號 七月廿五日 府 縣

十三年度警察土木並府縣立師範學校小學校補助國庫下渡金ノ義別紙書式ニ由リ決算帳編製來ル十二月一日限り會計檢査院へ差出スヘシ此旨相達候事

十三年度國庫下渡金決算帳

紙數何枚

廳 名

一金

元 受 高

但檢証何號何號

年號自何月至何月
大藏省ヨリ領収

一金

決 算 高

此 譯

警察費(内譯ヲ要セス)

金

土木費

内 譯

皆官費

金

内

金

何々(理極等)

金

何々

金

何々

金

何々

金

地方費

金

某町村

金

學校補助費

内 譯

金

府縣立師範學校

金

補助費

金

小學校補助費

金

某町村

元拂差引

右者十三年度國庫下渡金決算相違無之候也

年號何年何月何日

長官名印

會計検査院長宛

○第六十六號 七月廿八日 官省院使廳府縣

海軍部内ニ海軍機關學校設置候條此旨相違候事

○第六十七號 七月廿九日 官省院使廳府縣

明治十四年度歳入出豫算表ノ儀會計法第七條ニ據リ大藏省ニ於テ調理統計ノ會計検査院ノ審査ヲ經別冊ノ通り決定候條此旨相違候事(別冊畧之)

○第六十八號 八月三日 官省院使廳府縣

工部省中検査局相廢シ候條此旨相違候事

○第六十九號 八月六日 官省院使廳府縣

本年(四月)第三十三號ヲ以テ會計法相違候ニ付テハ各廳ニ於テ會計ニ關スル一切ノ事項ヲ遺漏ナク掲出シ一ノ會計規程ヲ調成シ來ル九月十五日限り可伺出此旨相違候事
但會計法第四十三條出納細則ハ本文規程中ノ一部トシテ取調候儀ト可相心得事

○第七十號 八月十日 官省院使廳府縣

今般開拓使管下石狩國樺戸郡ニ已決監ヲ設置シ樺戸集治監ト名稱シ内務省ヲ以テ直轄セシメ候條此旨相違候事

○第七十一號 八月十日 官省院使廳府縣

陸軍服制中左ノ通改正候條此旨相違候事

諸兵下副官夏服ノ部

(夏衣袴及帽ノ日覆上_レ等監護ニ同シ)ノ下(但地質ハ白綾小倉織ヲ用フ)ノ十二字ヲ加フ

同外套雨覆頭巾ノ部

(唯近衛ハ袖章ヲ緋色トス)ヲ(但地質大絨單製ニシテ裏ヲ附セズ近衛ハ袖章ヲ緋色ト

スルヲ異ナリトス(改ム)

下士及兵卒夏服ノ部

下士兵卒及諸生徒

衣袴

地質

雲齋

色

白

縫製形状

略衣袴ニ同

但其臂章ヲ服スルモノモ製衣ニ異ナルヲナシ

同雨覆ノ部

同頭巾

地質色

外套ニ同

卸

頤部一箇ヲ附ス

縫製形状

如圖

輜重下士以下外套圖中

(輜重下士以下)ヲ(騎兵輜重兵下士以下)ニ改ム

下士兵卒及諸生徒夏服ノ部

袖章ヲ廢止ス

騎兵下士以下外套雨覆ノ部

都テ廢止ス

○第七十二號 八月十五日 官省院使廳府縣

本年(四月)第三十三號達會計法三十七條ニ基キ出納勘定帳書式別冊ノ通相定候條本年

七月ヨリ施行可致此旨相達候事

出納勘定帳書式凡例

出納勘定帳ハ國庫ノ歲入出ニ係ル現出納(國庫ニ對シ直ニ納受スルモノ及ヒ他廳ニ對シ納受スルモノ)即チ諸返納ノ大藏省農商務省等ヲ經テ國庫ニ納付シ府縣警察費官林保護費ノ内務省農商務省ヲ經テ受領スルノ類)ヲ此書式ニ倣ヒ類別區畫シ其科目金員ヲ

遺漏ナク掲載スルモノトス

出納勘定帳ハ各年度ヲ區別シテ調理スベシ故ニ該年度ヲ經過スルモ猶ホ其年度所屬ノ
收支ヲ了セザル間ハ其年度ノ勘定帳トシテ調理スルモノトス(例ヘハ十三年度ノ收支
ヲ十四年七月後ニ於テスルハ其年月即チ何年何月若クハ自何月至何月ト書シ尙十三
年度勘定帳ト記載スルカ如シ)尤國庫ニ對シ直ニ納受セズ他應チ經テ納受スルモノハ
年度ノ經過ニ隨ヒ現出納セル年度ノ勘定帳ニ編入スベシ

府縣屬官俸給廳費史誌編輯費招魂社費等ノ殘額ニシテ据置拂コ属スルモノハ翌年度初
期勘定帳ノ元受金ニ加算スベシ

出納閉鎖ノ期ニ際シ經費ノ決算ニ至ラス打切拂コ立ルモノハ書式中經費ノ部末項ニ掲
記セシガ如ク打切拂コ立テ而シテ翌年度ノ出納勘定帳中ニ打切金ノ部ニ設ケ調理スル
モノトス

海外旅券手数料代官免許料版權免許料等ノ如キ國稅ニ屬スルモノハ租稅ノ部ニ編入ス
ベシ

起業金トハ内務省農商務省工部省開拓使等ニ於テ擔理スル所ノ起業費ニシテ起業金貸
付トハ府縣ニ於テ農商務省ヨリ借受タル授産資金等ヲ指稱ス

一時取扱金トハ宮内省ノ官國幣幣料陸軍省ノ城番給海軍省ノ下士以下遺族扶助料
等ノ如キ府縣廳ヲ經由スルモノヲ指稱ス

傳票番號トハ納入金ニアリテハ大藏省ヨリ受領シタル證書ニ記載セル傳票番號受取金
ニアリテハ出納局及驛遞局ヨリ通報セル者ヲ指稱ス

差引殘高即チ對比ノ差額ハ渾テ朱ヲ以テ書記スベシ

會計主務官吏ヲ置カサル支廳若クハ出張所及ビ神社費等ノ勘定仕上ハ左ノ期節ニ應
編入スベシ

本廳チ距ル五十里以内ニ在ル者ハ本廳同期ニ其五十里以外ニ百里未満ナルモノハ本廳
全期若クハ乙期ニ其二百里以外五百里未満ナルモノハ全乙期若クハ丙期ニ編入シ以
下順次此例ニ循フ

營業資金出納ニ於テ總計表及收支比較表等書式ニ據リ調製シ勘定帳ニ添付スルコトス

○第七十三號 八月十二日 官省院使廳府縣

外務省一等書記官二等書記官三等書記官并ニ一等書記生二等書記生三等書記生ヲ廢
更ニ書記官(奏任)書記生(判任)ヲ置ノ候條此旨相違候事

○第七拾四號 八月廿二日 官省院使廳府縣

御夏服別紙ノ通御定相成候條此旨相違候事 (別紙零之)

○第七十五號 八月廿四日 府 縣

大藏省租稅局出張所之儀東京、大坂、名古屋、廣島、熊本、仙臺ノ外更ニ十四ヶ所ヲ増設
ノ出張所位置別紙ノ通相定諸稅監查及ビ領收方爲取扱候條此旨相違候事

但シ領收順序ハ大藏卿ノ達ニ據ルベシ

租稅局出張所位置 収稅區畫

○東京出張所 東京府 神奈川縣 千葉縣 埼玉縣 朽木縣 茨城縣 群馬縣 山梨
縣 ○大坂出張所 大坂府 京都府 兵庫縣 滋賀縣 和歌山縣 德島縣 ○名古屋
出張所 愛知縣 三重縣 岐阜縣 ○靜岡出張所 靜岡縣 ○廣島出張所 廣島縣

山口縣 ○松江出張所 島根縣 鳥取縣(十四年第八十五號達ヲ以追加) ○岡山出張所 岡山縣

○高知出張所 高知縣 ○松山出張所 愛媛縣 ○長崎出張所 長崎縣 福岡縣 ○

熊本出張所 熊本縣 大分縣 ○鹿兒島出張所 鹿兒島縣 ○福井出張所 福井縣

石川縣 ○新潟出張所 新潟縣 ○長野出張所 長野縣 ○福島出張所 福島縣 ○

仙臺出張所 宮城縣 山形縣 ○盛岡出張所 岩手縣 ○秋田出張所 秋田縣 ○青

森出張所 青森縣

○第七拾六號 八月廿七日 官省院使廳府縣

本年三月二十二號達中改正

○第七十七號 八月卅一日 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ隨ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主
務省へ届出ツヘ此旨相違候事

○第七十八號 八月卅一日 官省院使廳府縣

農商務省職制第一項中追加

○第七十九號 九月十四日 官省院使廳府縣
 東京ヨリ各府縣へノ郵便線路里程表明治九年(三月)第二十四號ヲ以相違置候處爾後道
 路變換伸縮相生シ候コ付別表ノ通り改正候條此旨相違候事

明治十四年五月改正

府縣名	元標地名	里	程
東京	日本橋		
京都	三條大橋	東海道通リ 一三〇、二四、四〇、〇、四	
大坂	高麗橋	京都ヲ經テ 一四三、二六、二二、一	
神奈川	横濱 本町	神奈川ヲ經テ 八、一七、三三、三	
兵庫	神戸 市場町	京都ヲ經テ 一五三、二七、二四、	

長崎	外浦町	京都及ビ小倉ヲ經テ 三四五、二三、二一、五
新潟	本町	三國通リ 八九、一六、〇四、五
埼玉	浦和 中町	若松ヲ經テ 一〇〇、十九、十七、三
千葉	本町	高田ヲ經テ 一〇八、三〇、五一、三
茨城	水戸 下市軒町	中山道通リ 六、〇三、二〇、一
群馬	前橋 連雀町	市川ヲ經テ 一〇、一四、五二、四
栃木	倭町	土浦通リ 二九、三二、一六、二
三重	津 指示場	熊谷及ヒ伊勢崎ヲ經テ 二八、〇六、〇五、
愛知	名古屋 鐵砲町	小山ヲ經テ 二三、一九、〇八、四
静岡	呉服町	四日市ヲ經テ 一一、二、一一、五五、三
山梨	甲府 錦町	熱田ヲ經テ 九四、〇六、一三、四
		東海道通リ 四六、一〇、二五、
		甲州街通リ 三五、一九、三四、五

滋賀	上京町	東海道通 一、二七、三四、五五、四
岐阜	白木町	名古屋ヲ經テ 一〇三、二六、三八、三
長野	大門町	中山道追分ヲ經テ 五八、三三、五九、二
宮城	仙臺	陸羽街道福島ヲ經テ 九二、二九、三九、
福島	上町	陸羽街道通リ 七〇、三〇、〇五、三
岩手	盛岡 紺屋町	仙臺通リ 一四〇、一九、四六、
青森	米町	全 一九一、二七、五〇、三
山形	七日町	米澤通リ 二〇二、二二、三、二七、二
秋田	久保田 町	全 九四、三四、五二、
福井	照手上町	一五〇、〇一、五一、
石川	金澤 尾張町	名古屋及ヒ番場ヲ經テ 一四〇、三四、〇三、二
		高田ヲ經テ 一二七、二二、二、一二、三
		名古屋及ヒ福井ヲ經テ 一六三、一四、二六、三

島根	松江 堅町	京都及ヒ津山ヲ經テ 二二三、三二、五五、四
岡山	橋本町	京都及ヒ姫路ヲ經テ 一八九、二四、一五、四
廣島	細工町	全 二三三、三五、四一、一
山口	大市町	京都及ヒ廣島ヲ經テ 二六九、一六、四三、二
和歌山	京橋	大坂ヲ經テ 一六一、〇六、一四、四
徳島	西横町	明石ヲ經テ淡路通リ 一八二、三三、五三、
愛媛	松山 札ノ辻	下津井及ヒ丸龜ヲ經テ 二四八、三三、一四、二
高知	本町 掲示場	全 二三九、二七、五二、四
福岡	橋口町	小倉及ヒ山家ヲ經テ 三一一、二九、一五、三
大分	碩田橋	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三二〇、二六、一〇、一
熊本	新町	小倉及ヒ久留米ヲ經テ 三三三、二八、一〇、

○第八拾號 九月十五日 官省院使廳府縣

本年三月第十一號ヲ以テ相達候東京府下憲兵來ル十月十五日ヨリ勤務施行セシメ候條
此旨相達候事

○第八拾一號 九月十九日 官省院使廳府縣

明治十五年達監獄則及本年(三月)第十三號在監人給與規則同(七月)第六十四號達在監
人雇工錢規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相達候事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ同日ヨリ施行スヘシ

監 獄 則

監獄則目錄

第一編

第一章 汎則

第二章 監署ノ規程

第三章 監獄ノ構造

第二編

第一章 役法 附時限

第二章 工錢

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編

第一章 給與

第二章 疾病 附死亡

第三章 書信

第四章 接見

第五章 差入品

第四編

第一章 教誨

第二章 賞懲

第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス
但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場ハ懲役場ハ警視總監又ハ

府知事(東京府ヲ除ク)縣令之ヲ管埋ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第拾九條第三拾條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一

項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ乘リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閲シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒(三歳未満)ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ機本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於

テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒タヘシ懲治人ノ監舎ニ入時モ亦同シ
第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス
第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミテ許スヘシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載セラル者ヲ別異ス

- 一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者
- 三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但著衣ノ外襟ニ白布ヲ縫著シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ息布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ其犯者ヲ以テ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ

矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡癩者

二 尊族親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入ケル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證據ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サズ但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ一年ニ過ルヲ得ス

入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入ル者ト同上ノ年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲ以テ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞與簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ視奪セザルトキハ之ヲ刪除スヘシ但ソノ賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セシトスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金額ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官(治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏)ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免閉ヲ受タル徒刑刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命

令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後願ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過カレハ埋葬若クハ下付スルコトヲ得ス

第三十三條 死刑者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ迫ナキトキハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交通スルノ便ヲ得サシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラセムヘシ

閤室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲセシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス

密室閤室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監舍ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障礙スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ壇壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章 役法 附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ毎囚一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ及ヒ病後ノ疲勞若クハ身軀ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應テ作業ノ科程ヲ寬恕ス

若シ己ムテ得ズ外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚徒ニ聯絆シ笠ヲ用テ（晴雨ヲ問ハス）其面ヲ掩ヘシム但外役ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム

外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサフシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルコ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者コハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖ト典獄之ヲ勸諭シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四拾七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間（休憩時間ヲ除）農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

○時限

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム其起床ヨリ約于一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テ全監ニ一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム
午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ愉懶ニシテ怠役スル者ハ飲後ノ休憩ヲ許サズ

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定メ之ヲ十分

シテ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者并ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業

スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ収メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ

當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢ハ之ニ準ス(十四年第九十號達ヲ以文中追加)

第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル

者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヲ能ハサル者及ヒ刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應ジ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他

必要ノ物品及ヒ在監人給與規則第七條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條 在監人死亡シテ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取セタル故舊ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘキモノナキトキハ之ヲ沒収ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒収ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナクレハ之ヲ沒収ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ內務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地ニテ押送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ在リ集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中

ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戸長ニ通告スヘシ其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請

フ者ハ之ヲ許ス貧困ロシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者コハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種コ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ

女服ハ縹ヲ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣 一袷 一線入衣 一襦袢

就役服

一單短衣 一袷短衣 一線入短衣 一襦袢 一股引

雜具

一蒲團 一蚊帳 一莞筵 一枕 一帶(長三尺)

一揮(長三尺) 一手巾 一蓑 一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ淋瀝補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四 七合 強キ力業ニ服スル者

一同 五合 輕キ力業ニ服スル者

一同 四合 工役ニ服セサル者及ヒ

一同 三合 滿十歳以上ノ未決者

一業 十歳未滿ノ幼者

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等コハ

其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過

ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者コハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコト

ヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條 在監人日用ノ雜費 澣濯補綴又ハ炊用ノ薪炭ハ一人一日金壹錢貳厘以下トス 其他一身ニ係ル日常諸費

第七十一條 監房常置ノ器具

一貯水器并ニ飲器

木製

一睡壺

同

一便器

木製大小二種但監房ニ廁圖ノ接續スルモノハ此器ヲ用ヒス

一小箒

草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナルモノ

一洗手盆

木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澣ヒ臭氣ヲ去リ

蟲害ヲ防クヲ安ス但病者ノ物ト混レテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病 附 死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若ハ病室ニ於醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯藥等ヲ用ルコトヲ要スルハ

醫師チシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七拾七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染

病者アモトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診斷書ヲ副ヘ各其所屬長官

ニ報告スヘシ

○死亡

第七拾八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并瘞テ之ヲ驗屍スベシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所

ニ申報スヘシ

第七拾九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三拾三條ニ記載シタル時限ヨリ二拾四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フ時ハ之ヲ許シ其者チシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八拾條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六箇月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナシ且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラス

第八拾一條 未決者ニ係ル信書ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八拾二條 懲治ハ及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル信書ハ一個月一次ニ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル信書ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意

アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閲シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ邊善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閲スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其授領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ其監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛テ差出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキコトナキトハ之ヲ許シ看守長看守並接シテ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物(炊煮ヲ要セサルモノ)コシテ一人一食ノ量ニ限ルヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サズ

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受ケル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講習ヲ開クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ

一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ(未決監

ハ此款ヲ除ク)

- 一 毎朝父母若シハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔コシ之ヲ排列シ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁厠圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若シハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起テスルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若シハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス未決監ニハ此款ヲ除ク)
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラヌ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルコト非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ繩器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一 水火風震等ノ際解放ニ違フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケザル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其狀情ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日

某監獄署

第二章 賞懲

第九十六條 已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎々之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖(肩臂間ノ表面)ニ方二寸(曲尺)ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽又ハ特赦ヲ具スルノ考據ト爲ヌヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞譽シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ録シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考供スヘシ

第一百二條 懲治人第一百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第一百三條 已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ處作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第一百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限トス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第一百五條 懲治人及ヒ十六歲未滿ノ已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

入監賞罰	入監賞罰中 明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
教育及宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナス得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
書信ノ贈答	書信ノ贈答 明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來
常該官名	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名 明治何年月日保釋若クハ責付
保釋	明治何年月日保釋若クハ責付
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監
終結	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行又 ハ他監押送
(典獄(檢印))	已決囚名籍 主檢 書記 (氏名印)
本生	某管下國郡町番住此又ハ何某子弟妻女
山籍	何國郡村產 族籍
氏族	何 某
年及	某年 月 日 生 當何年何月何年何月
營業及親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無

乳兒	男若クハ女 叔監ノ時何歳何ケ月 父母ニ先ナテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス 何刑若干年月日
刑名及ヒ宣携	明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告
告ノ月日	明治何年月日午 後 第何時入監
収監ノ日	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス 若シ再三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラシ
大畧ノ數	長何尺何寸何分肥瘠強弱
身材	而體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ 婆態其他痘斑、癩子、癭瘤、黑痣、癩風、天跡、創瘻ノ 類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
容貌	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナス得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
音聲	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
教育及宗門	明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來
入監賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信ノ贈答	明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來
假出獄	明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來
免幽閉	明治何年月日何國郡町住親屬若クハ朋友ニ書信來

事 變 明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監
或ハ何罪ヲ犯シ復タ未決監ニ入ル

終 結 明治何年月日満期放免又ハ特赦

假出獄之證票

某管下國郡(町村)番地住又ハ何某子弟妻女

族 籍

何 某

某年 月 日 生
明治何年何月何年何ヶ月

身 材

名籍ノ様本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容 貌

上ニ全シ

罪質犯數

刑名刑期

及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受
シ何年月日ヨリ執行何年月日満期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ
約テ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘ
キ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪經罪ヲ犯スコトアルハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑
期ニ算入セラレサル事

一此者被病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ
居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事
右之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

明治何年 月

署 日 印

某監獄署

長官 何 某

印

○出獄ヲ假受ケタル者所有金アルトキハ此證票ノ裏面若クハ欄内ニ左ノ二款ヲ附記スヘシ

- 一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送リ過シタル事
- 一警察官ニ送リ過シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日モテモ受取得ヘシト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非サレハ一次ニ之ヲ渡サレルヘキ事

(料紙半紙)

(括弧内朱書)

(某下管何)

- 一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ
- 一書信ノ文句規則ニ背キタルコトアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

書人監在○署獄監

日 月 年 治明○紙信

囚徒服役時限表

月名	時限	起床	就役	小憩	午飯	罷役	晚飯	還房	服役時間計
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前第十時	正午十二時	午後三時	一時十八分	午後四時八分	六時二十分	
二月	六時三十分	七時三十分	第十時五分	十二時	三時五分	一時卅二分	五時十二分	六時五十分	
三月	六時〇六分	七時〇六分	同	同上	四時	一時四分	五時四分	七時三十分	

各地ノ司
獄官此表
ノ區分チ
準トナシ
宜裁酌シ
テ役囚チ
遇スヘシ

○第八十二號 九月廿日 官省院使廳府縣

司法官吏ヨリ巡查及兵員ヲ要求使用スルコトハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及物件差押へ其他職務ヲ行フ

ニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會ノ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スル事ヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力

ヲ要求スル事ヲ得

○第八十三號 九月二十二日 府 縣

各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚多ク土地爭訟ノ審

判歴史ノ考證地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ候條漫ニ改稱變更不致様可心得此旨相達候事(但實際己ムヲ得サル分ハ時々内務省へ可伺出事)

○第八十四號 九月廿六日 官省院使廳府縣

内國勸業博覽會事務局本月三十日限り相廢シ殘務ノ儀ハ農商務省ニ於テ取扱候條此旨相達候事

○第八十五號 九月廿七日 府 縣

本年八月第七十五號達大藏省租稅局松江出張所收稅區畫中へ鳥取縣追加

○第八十六號 十月四日 警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除)

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用ニ供スルヲ其院長所長ノ照會ニ應ニ一名又ハ數名ノ巡查爲相詰又拘留被告人審問中其護衛ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公廷ニ入り看護セシムヘシ此旨相達候事

○第八十七號 十月十日 官省院使廳府縣

明治十年(十二月)第九十一號達神宮並官國幣社職員中左ノ通追加候條此旨相達候事

等外出仕

定員ナシ

但各社ノ便宜ニ依リ内務省へ稟議ノ上之ヲ置ク其俸給ハ内務卿適宜之ヲ定ム

○第八十八號 十月廿一日 官省院使廳府縣

太政官中法制會計軍事内務司法外務ノ六部被廢候條此旨相違候事

○第八十九號 十月廿一日 官省院使廳府縣

太政官中參事院ヲ被置職制章程在之通被定候條此旨相違候事

參事院職制

議長	一人	相等	一等
副議長	一人	全	全
議官	無定員	全	一等ヨリ三等ニ至ル
議官補	無定員	全	四等ヨリ七等ニ至ル
員外議官補	無定員	(各省書記官ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ相當本官ニ依ル)	
書記官	無定員	(議官補ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ相當本官ニ依ル)	

書記生

無定員

相當

八等ヨリ拾七等ニ至ル

參事院章程

第一條 參事院ハ太政官ニ屬シ内閣ノ命ニ依リ法律規則ノ草定審査ニ參預スルノ所トス

第二條 參事院ノ職員ハ議長一人副議長一人議官及議官補員外議官補トス

第三條 議官ノ中議長ノ命ヲ以テ部長六人ヲ置キ各部ノ事務ヲ掘埋ス

第四條 議官補ハ各部ニ分屬シ議案ヲ造リ及ヒ會議ニ列シ本案ノ趣旨ヲ辨明ス

第五條 員外議官補ハ諸省書記官ノ中ヲ以テ兼テ之ニ充ツ本職主任ノ件ニ限リ臨時議

事ニ列席ス

第六條 書記官ハ議官補ノ中ヲ以テ之ニ充テ議長内局ノ事ヲ幹ス

第七條 參事院ノ事務左ノ如シ

第一 本院ノ發議ヲ以テシ又ハ内閣ノ命ニ因リ法律規則案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ内閣ニ上申ス

第二 各省ヨリ上稟スル所ノ法律規則案ヲ審案シ意見ヲ具ヘ或ハ修正ヲ加ヘ内閣ニ上申ス

第三 元老院ニ於テ議決スル所ノ法案ヲ審査シ時宜ニ依リ意見書ヲ具ヘテ内閣ノ命ヲ請ヒ元老院ノ再議ヲ求ムルコトヲ得或ハ内閣ノ命ニ依リ本院ノ委員ヲ差シ元老院ト叶議スルヲ得

第四 院省使廳府縣ヨリ上稟シテ諸般ノ文書ヲ内閣ヨリ下付スルトハ意見ヲ具ヘテ上申ス

第五 各省ノ年報及ヒ諸般ノ報告ヲ勘査ス

第八條 前條ノ外參事院ハ仍ホ左ノ二件ノ事務ヲ行フ

第一 行政官ト司法官トノ際ノ權限ノ爭若クハ地方會議ト地方官トノ間ニ起ル所ノ法律上又ハ權限ノ爭ヲ審理ス

第二 法律規則ノ款義ニ付省使廳府縣ノ質問ニ答ヘ説明ヲ與フ

第九條 時宜ニ依リ特旨ヲ以テ議官ヲ内閣ニ召シ各別ニ意見ヲ上陳セシムルヲアルヘ

第十條 議官ハ内閣ノ命ニ因リ内閣委員トナリテ元老院ニ出頭シ議案ヲ辨明スルヲアルヘ

第十一條 本院中左ノ事務ヲ分掌スル爲メ内局及六部ヲ置ク

内 局 院ノ庶務及圖書ノ事

外務部 外交ノ事

内務部 内治勸業工業教育ノ事

軍事部 陸海軍ノ事

財務部 歲出歲入及ヒ國債貨幣租稅ノ事

司法部 恩赦特典及ヒ裁判ノ章程權限並行政裁判ノ事

法制部 民法訴訟法商法刑法治罪法ノ事

第十二條 本院ノ議事ハ分テ部會議總會議ノ二類トス部會議ハ一部ノ議官議官補會議ニ若シ兩部以上關係アル議案ニ就テハ兩部以上ノ議官議官補聯合會議スル者トス總

會議ハ六部ノ議官議官補共同會議スルモノトス

第十三條 法律及外國條約案ニ係リ又ハ第八條第二項ノ件ニ係ル者ハ總會議ヲ用フベシ其他議長ニ於テ重要事件ト思惟スル者ハ總テ之ニ準スヘシ

第十四條 部會議ノ成案ニ就キ議長ニ於テ意見アル者ハ更ニ總會議ニ付スヘシ

第十五條 總會議ニ於テ議長事故アリテ闕席スル者ハ副議長上席スヘシ議長副議長共ニ事故アリテ闕席スル者ハ議長ノ撰ヲ以テ假ニ上席人ヲ定ムヘシ

第十六條 部會議ニ於テ部長事故アリテ闕席スル者ハ該部長ノ撰ヲ以テ假ニ上席人ヲ定ムヘシ

第十七條 凡ソ會議ニ上席スル者ハ議事可否共ニ多數ヲ得サル時ニ當リ判決ノ權ヲ有ス

第十八條 内閣員ハ臨時ニ總會議又ハ部會議ニ臨席シ意見ヲ述ルコトヲ得

第十九條 議案ノ總會議ヲ經タル者ハ議長ノ名ヲ以テ内閣ニ上申スヘシ其總會議ニ付セサルハ部議ヲ經ルノ後内局ニ送リ議長ヲ審署シ其名ヲ以テ内閣ニ上申スヘシ

第二十條 凡ソ文案稽失スル者アレハ内局ニ於テハ書記官各部ニ於テハ部長各其責ヲ任スヘシ

○第九十號 十月廿四日 官省院使廳府縣監獄則第五十一條中追加

○第九十一號 十月廿八日 官省院使廳府縣

今般參事院ヲ被置候ニ付本年(二月)第六號達審理局ヲ被廢事務手續左ノ通被定候條此旨相違候事 (但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ)

第一條 本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及ヒ府縣會ヨリ裁定ヲ請フノ具狀書ハ府知事縣令ニ於テ之ヲ取經メ參事院議長ニ當テ差出スヘシ

第二條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉サ、ルコトアル者ハ府知事縣令若シハ其代理人及ヒ府縣會惣代自ラ參事院ニ出頭シテ之ヲ辨明シ又ハ參事院ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルコトアルヘシ (但府縣會總代ハ其議員タル者ニ限ル)

第三條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發付スヘシ

○第九十二號 十月卅一日 官省院使廳府縣
 明治十年(六月)第四十七號達大審院裁判所屬ヲ廢シ更ニ大審院裁判所書記ヲ置キ月俸
 左表ノ通相定候條此旨相達候事

大審院
 裁判所 書記

判

任

月五十五圓	月四十五圓	月四十五圓	月三十五圓	月卅圓	月廿五圓	月廿圓	月十五圓	月十二圓
俸圓	俸圓	俸圓	俸圓	俸圓	俸圓	俸圓	俸圓	俸圓

○第九十三號 十一月五日 官省(內務大藏工部ヲ除)院使廳府縣

今般日本鐵道會社ノ創設ヲ許可シ別紙ノ通特許條約書相定候條爲心得此旨相達候事

東京ヨリ青森ニ至ル鐵道特許條約書

日本鐵道會社ノ創立定款ヲ認可シ政府ノ名ヲ以テ左ノ條項ヲ命約ス

明治十四年 月

工部卿 某

第一條 日本鐵道會社ニ於テ東京ヨリ高崎ヲ經テ前橋ニ至リ夫レヨリ白河仙臺盛岡ヲ

經テ青森ニ至ル鐵道ヲ建築シ運輸ノ業ヲ營ムコトヲ特許ス

第二條 官有ノ土地ニシテ鐵道ノ線路ニ當ル地所及ヒ鐵道ニ必要ナル倉庫停車場建築

ノ用ニ供スヘキ地所ハ無償ニテ之ヲ會社ニ貸付スヘシ同上ノ用ニ供シ或ハ取除クヘ

キ官有ノ家屋ハ政府ノ都合ニ因リ或ハ無償ニテ之ヲ貸付シ或ハ相當代價ヲ以テ排下

シヘシ

第三條 民有ノ土地家屋ニシテ前條ノ用ニ供スヘキモノハ公用土地買上規則ニ據リテ

政府ニ買上ケ之ヲ會社ニ排下シヘシ

第四條 鐵道ニ屬スル一切ノ土地ハ國稅ヲ免除スヘシ

第五條 會社ノ株金募集ノ上ハ每區建築落成迄ハ其株金拂込ノ翌月ヨリ起算シ一ケ年

八分ノ利子ヲ下附シ每區運輸開始ノ後其收入ノ純益一ケ年八分ニ上ラサルハ東京

ヨリ仙臺迄ノ間ハ每區十ケ年間仙臺ヨリ青森迄ハ每區十五ケ年間政府ヨリ其不足ヲ

補給スヘシ

第六條 會社總收入ヨリ營業ニ關スル經費ヲ引去リ自餘ノ金額ヲ以テ純益ト爲スヘシ

但シ興業費ト營業費ハ工部省ニ於テ定メタル會計規則ニ從ツテ區分スヘシ

第七條 鐵道敷地ノ幅員鐵軌ノ重量器械車ノ製方橋梁ノ架設停車場ノ位置及ヒ建築ノ方法等ハ精密ナル圖面及ヒ仕様書ヲ以テ工部卿ノ認可ヲ請フテ建築コ着手シ若シハ變更スヘキモノトス

第八條 東京ヨリ龍橋コ至ル迄ノ諸工事ハ日本鐵道會社ノ願ニ依リ工部省鐵道局ニ於テ一切之ヲ執行シ其ノ方法位置等ハ鐵道局ト會社トノ協議ヲ以テ畫定シ工部卿ノ認可ヲ請フヘキモノトス

第九條 工部卿ハ凡ソ鐵道ニ關スル事物(發明ニ係ルモノト否トヲ問ハス)コシテ公眾ノ安全若クハ便益上コ於テ要用ナリト認ムルモノハ日本鐵道會社ニ向テ其設備若クハ修正ヲ命スルコトヲ得ヘシ

第十條 第一條ニ掲グル鐵道全線路ノ工事ハ本書下付ノ月ヨリ六ヶ月以内コ着手シ滿七ヶ年間ニ落成スヘキモノトス

第十一條 全線路落成ニ至ラスト雖モ漸次落成シタル部分ハ工部卿ノ許可ヲ請ケ運輸ノ業ヲ開始スルコトヲ得ヘシ

第十二條 政府ハ第一鐵道監査官ヲ命シ兼テ工部卿ノ認可シタル圖面及ヒ仕様書ニ準據シテ工事ノ實況ヲ監査シ且常ニ線路諸機械ヲ巡視シテ危險ノ箇所アルコトハ會社ニ命令シテ之ヲ修理セシメ其他諸工事及ヒ運輸上等ニ付法律規則及ヒ政府ヨリ會社ニ命約シタル條件ノ施行實踐ヲ督促セシム第二日本鐵道會社會計監査官ヲ命シ會社一切ノ會計ヲ監査セシムヘシ(但前第五條利益請合ノ期限後會計監査ハ廢止タルヘシ)

第十三條 日本鐵道會社ニ於テ前條鐵道監査官ノ命令督促ヲ聽カサルカ若クハ正當ノ事故ナク監査官ノ指定シタル期限内ニ其命令督促ニ係ル事項ノ執行ヲ怠ルカ若クハ監査官ノ指定シタル方法ニ違フコトハ政府ニ於テ直チニ其事業ヲ執行シ會社ヲシテ其費ヲ支辨セシムヘシ

第十四條 鐵道建築ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ他所ニ移設シ或ハ一時他所ニ假設スルコト要スルコトハ所管地方廳ノ許可ヲ請ケテ之ニ着手其費用ハ會社ヨリ支辨スヘシ(但是ノ移設假設ノ爲メ公私所有ノ土地家屋ニ關シテハ第二條第三條ノ例ニ依

ルヲ得ヘシ

第十五條 會社ハ線路ノ安全ヲ保持セシメカ爲メニ線路ニ沿テ完全ノ掘防若シハ牆柵ヲ設ケ守衛ノ番人ヲ置キ充分ノ警備ヲ爲スヘシ

第十六條 旅客及ヒ荷物ノ運送賃及ヒ走車ノ速度發車ノ度數時間ハ工部卿ノ許可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第十七條 會社ハ毎月ノ旅客及ヒ荷物ノ運送高ト其會計ノ精算及方法等ヲ翌月初旬中ニ工部卿ニ報告スヘシ又一期毎ニ其一期中ノ報告書ヲ作リ一期ノ過了スル後ニケ月以內ニ同卿ニ差出スヘシ

第十八條 鐵道敷地內ニ於テ線路ニ沿ヒ政府ハ電信ヲ架設スルヲ得又會社ハ無料ニテ政府ノ設備セル架柱ノ一部分ヲ使用シ鐵道用ノ電信ヲ架スルヲ得

第十九條 停車場內若シハ鐵道敷地內ニ於テ會社ハ電信郵便兩局ノ需ニ應ジ土地或ハ家屋ノ一部分ヲ無料ニテ兩局ニ貸與スヘシ

第二十條 郵便信書及ヒ其遞送ニ關スル人員ハ無料ニテ之ヲ輸送シ郵便繁多ニシテ驛

遞總監ノ要メアルトハ二輛以下ノ運送車ヲ定期列車ト與ニ發スヘシ若シ二輛以上ヲ要スルトハ定價ノ半額ヲ受領スルヲ得ヘシ

第二十一條 鐵道事務ニ關シテ往復スル吏員ハ無料乗車ヲ許ルスヘシ(但是等ノ吏員ハ各自所屬ノ官衙ト會社トノ間ニ於テ預約シタル常乘切手ヲ帶ル者ニ限ルヘシ)

第二十二條 公務ヲ以テ往來スル陸海軍人軍屬軍馬其他軍用品並ニ警察官ハ總テ其半價ヲ以テ乗車輸送ヲ爲スヘシ(但其公務タルトテ賤スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル)

第二十三條 會社ハ政府ノ命令ニ因リ機車ヲ通常ノ列車ト與ニ無料ニテ輸送シ及ヒ警固吏員ノ無料乗車ヲ許スヘシ但シ該機車ハ官費ヲ以テ製造シ會社之ヲ保管スヘシ

第二十四條 非常ノ事變兵亂等ノ時ニ當テハ會社ハ政府ノ命ニ應ジ政府ニ鐵道ヲ自由ニ使用セシムルノ義務アル者トス

第二十五條 凶歳ニ於テ穀價非常ニ騰貴スルトハ政府ノ命令スル時日ノ間ハ指名スル穀類ニ限リ其運賃ヲ半價ニ低下スヘシ

第二十六條 政府ヨリ他日該鐵道ニ枝線ヲ附シ若シハ之ヲ横斷シ若シハ其近傍ニ道路

溝渠運河ヲ設クルヲ允許スルモハ會社ニ於テ之ヲ沮拒スルヲ得ス

第二十七條 此特許條約ノ期限ハ明治十五年一月ヨリ向九十九ケ年トス但滿五十年經過ノ後ハ政府ニ於テ何時ニテモ鐵道及ヒ第三十條ニ掲クル附屬物ヲ買上ルノ權アルモノトス

第二十八條 第二十七條ノ場合ニ於テハ日本鐵道會社ニ於テ興業ノ爲メ發行セシ株券ノ總額時價相當ヲ以テ買上ケノ價格ト爲スヘシ(十四年第一百二號達ヲ以本條及下條中改正)

第二十九條 期限最終ノ年ヨリ前條買上ケノ場合ニハ前五ケ年間ニ於テ諸般ノ修理ヲ怠ルコトアラハ政府ハ會社ニ於テ修理セシメ引渡ノ時ニ於テ完全ノ有樣ヲ望ムノ權アリ若シ會社ニ於テ政府ヨリ指定スル修理ヲ怠リ或ハ其方法ニ違フ時ハ政府自ラ之ヲ修理シテ會社ノ收入金ヨリ其經費ヲ支辨セシムヘシ

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テハ鐵道倉庫停車場及ヒ之ニ屬スル土地其他鐵道ノ營業ニ必要ナル鐵道附屬ノ家屋諸器具ハ鐵道ト共ニ一切之ヲ引渡スヘキモノトス

第三十一條 日本鐵道會社ニ於テ本特許條約書中ノ條件及ヒ日本鐵道會社創立定款中ノ條件ニ違背スルカ若クハ之ヲ遵守スルヲ怠リ鐵道ノ公益ヲ妨害スルモハ政府ニ於テ該會社株主中若クハ他人ヲ以テ特別ノ委員ニ命ジ一時會社ノ事業ヲ管理セシメ若クハ本條約ノ期限ニ拘ハラヌ鐵道及ヒ鐵道ノ營業上ニ必要ナル附屬ノ家屋諸器具ヲ公賣ニ附シ他人ヲ以テ建築並ニ運輸ノ業ヲ繼續セシムルコトヲ得但シ本條ノ場合ニ於テ損益ハ猶ホ會社ニ於テ負擔スヘキモノトス

第三十二條 本特許條約及ヒ日本鐵道會社創立定款ニ依リ施行ノ際當該官吏ト會社トノ間ニ異見ノ生シタルモハ工部卿之ヲ判定スヘシ

○第九十四號 十一月十日 官省院使廳府縣 各省従前ノ事務章程ヲ廢シ今般諸省事務章程通則別紙ノ通被定候條此旨相違候事

諸省事務章程通則

第一條 各省卿ハ各省ノ行政事務ヲ總理ス

第二條 各省卿ハ該省所部ノ官屬ヲ統率シ及ヒ監督シ奏任官ノ進退ヲ具狀シ其八等官以下ハ之ヲ判任ス

第三條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付法律規則ヲ制定シ又ハ之ヲ廢止改正スルヲ要スルコトアルキハ案ヲ具ヘテ上奏シ裁テ請フヘシ

第四條 凡法律規則布達ノ其主管ノ事務ニ屬スルモノハ各省卿之レニ副署シ其執行ノ責ニ任スヘシ若シ兩省以上ニ關涉スルモノハ關涉ノ省卿均シク之ニ連署シ其責ニ任スヘシ

第五條 各省卿ハ所部ノ官屬ニ指令又ハ訓條ヲ下付スルルコトヲ得

第六條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付地方官ヲ監督スヘシ若シ地方官ノ處分法律規則ヲ犯シ若シハ權限ヲ侵スモノアレハ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付毎年一月前年ノ効程ヲ具ヘ報告書ヲ奏上ス

第八條 府縣并所部官屬ノ報告各省卿處分ニ屬スルモノ其事体重大ナルハ仍ホ處分ヲ後ニ奏上スヘシ

第九條 各省ノ事務臨時ニ定額豫算外ノ費用ヲ要スルキハ上奏シテ裁テ請フヘシ

第十條 各省卿事故アルコトハ臨時命ヲ受ケテ他ノ省卿其代理ニ任スヘシ

第十一條 各省輔官ハ卿ノ職ヲ輔ケ卿ノ命ヲ以テ各省内部ノ事務ヲ代理スルコトヲ得

○第九十五號 十一月十日 官省院使廳府縣

今般諸省事務章程通則第九十四號達ノ通知定候ニ付テハ管掌事務ノ區分ハ總テ從前執行スル所ニルヘシ此旨相達候事

○第九十六號 十一月十四日 官省院使廳府縣

勅奏判任官ノ區別アツテ等級ヲ設ケサル諸官員大禮服ノ儀ハ明治五年(十一月)第三百三十九號布告大禮服章圖式中等級標條ヲ除キ其餘ノ圖式并同十年(九月)第六十五號達ノ通り調製可致且儀式上ニ在テハ他ノ有等官ト各別席ニ列スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事(但判任官席次ハ本年(五月)第四十六號達ノ通心得ヘシ)

○第九十七號 十一月廿六日 官省院使廳府縣

外務省中領事官等左之通知改定候條此旨相達候事

但總領事副領事官等ハ從前ノ通り

領事 相當 (五等ヨリ七等ニ至ル)

○第九十八號 十一月廿六日 府縣(東京府ヲ除ク)

府縣官中警部長ヲ置キ官等俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

警部長 奏任 八等相當

但月俸八十圓七十圓六十圓ニ區別ス

○第九十九號 十一月廿六日 府縣(東京府ヲ除ク)

府縣官職中左之通増補候條此旨相達候事

大少書記官ノ下第二項ノ次ニ

警部長 一人

第一 警部長ハ事ヲ府知事縣令ニ承ケ其府縣警察上一切ノ事務ヲ調理ス

第二 警部長ハ國事警察ニ付テハ直ニ内務卿ノ命令ヲ奉シ又ハ直ニ其事情ヲ具狀

スルコアルヘシ

○第百號 十一月廿九日(内務省開拓使警視廳府縣)東京府ヲ除ク

監獄看守長及ヒ看守ハ禮服着用ノ節モ其制服相用フヘシ此旨相達候事

○第百一號 十二月三日 官省院使廳府縣

本年(十一月)第九十四號ヲ以テ諸省事務章程通則相達候ニ付テハ法律規則ハ布告ヲ以テ發行シ從前諸省限リ布達セル條規ノ類ハ自今總テ太政官ヨリ布達ヲ以テ發行候條此旨相達候事(但太政官及ヒ諸省ヨリ一時公布スルモ止ルモノハ告示ヲ以テ發行シ諸省卿ヨリ府縣長官ヘ達シ儀ハ從前ノ通リ)

○第百二號 十二月五日 官省院使廳府縣

本年(十一月)第九十三號達日本鐵道會社特許條約書中改正

○第百三號 十二月七日 官省院使廳府縣

今般第六十三號ヲ以テ褒章條例布告候ニ付取扱手續左ノ通ニ相定候條此旨相達候事

但明治八年(七月)第百二十一號達ハ右條例施行ノ日ヨリ廢止候事

第一條 凡褒章ヲ賜フヘキ者アルキハ其管轄長官ヨリ内務卿又ハ農商務卿ニ具申シ内務卿又ハ農商務卿ハ其當否ヲ審査スヘシ

但官吏職務上ニ於テ人命ヲ救助シ又ハ公益ヲ興シタルハ褒章ヲ賜フノ限リニ非ス

二等 警視	三等 警視	四等 警視	五等 警視	巡査長 大令司 警察副 使	巡査副 長	中 司 令
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	眞 鍮 一分 四條	同	同
同	同	同	同	銀三分 一條	同	同
同	同	同	同	銀 一分 三條	同	同
同	同	同	同	銀三分 一條	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同

巡査部 長	同
少 令 司	同
同	二條
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

凡例

- 一 正服ハ大禮服并通常禮服ニ適用ス
 - 一 巡査正副總長方面監督警察使及ヒ消防正副司令長等ハ各相當警視官ノ正服ヲ用フルモノトス
 - 一 監臨檢視又ハ出火其他非常ノ場合ニ在テハ便宜平常服ニ正帽ヲ用ユルヲ得
 - 一 凡職務ヲ執行スル場合ニアラサレハ便宜通常禮服ヲ用ユルヲ得尤モ武官ヨリ兼任ノ者ハ其制規ニ從フヘシ
 - 一 警視廳員ニシテ本表ニ掲載スルモノ、外ハ一般文官ノ制規ニ從フヘシ但司獄官吏ノ如キ特別ノ制規アルモノハ此限コアラズ
- (圖式ハ略ス)
- 第百七號 十二月十七日 官省院使廳府縣
- 明治十三年(十月)第五十六號達巡査制服表中卸ノ儀ハ夏冬兩服トモ眞鍮日章ニ改正候

條此旨相達候事

○第百八號 十二月廿二日 官省院使廳府縣

修史館職制並ニ條給左ノ通改正候條此旨相達候事（但一等掌記以下従前ノ通

修史館職制

總裁 一員 大臣之ヲ兼任ス

修史ノ大体ヲ裁定シ其是非筆削事至重ニ涉ル者ハ上奏取裁ス兼テ職員ノ進退ヲ總掌

シ秘閣ヲ管ス

編修長官 一員

編修ノ事ヲ主理シ史志ヲ撰定シ編修官結撰スル所ヲ取捨刪定スルヲ掌ル

編修副長官 一員

職掌長官ニ同シ

監事

編修ヲ監シ功課ヲ督シ檢討ヲ任シ兼テ庶務ヲ辨理シ判任官ノ進退ニ關與スルヲ掌ル

副監事

職掌監事ニ同シ

一等編修官二等編修官三等編修官四等編修官掌記采輯スル所ヲ受ケ之ヲ編次シ其文辭

ヲ結撰スルヲ掌ル

官等年俸

編修長官 三等官 年俸 三千五百圓 編修副長官 四等官 全三千圓

監事 全 全 二千五百圓 一等編修官 全 全二千五百圓

副監事 五等官 全 二千圓 二等編修官 全 全二千圓

三等編修官 六等官 全 千五百圓 四等編修官 七等官 全 千圓

○第百拾號 十二月廿四日 官省院使廳府縣

明治九年（六月）第六十四號達旅費定則外國ノ部第壹章へ左ノ通追加候條此旨相達候事

第四項 在勤又ハ出張先ニ於テ死去ノ節ハ該地ヨリ内地開港場マテハ第二章ニ照シ陸

路旅費及船客料ノ給額夫ヨリ郷里マテハ内國ノ部第七章ニ準シ手當トシテ之ヲ給ス

○第百拾壹號 十二月廿八日 府縣(東京府ヲ除ク)
警部巡查ノ等級ヲ廢シ俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

判	任	等	外
警	部	警	部
	給	補	巡
月	給	月	給
五十一圓	三十三圓	二十五圓	十圓
四十四圓	三十一圓	二十圓	九圓
四十四圓	三十一圓	十五圓	八圓
五圓	五圓	二圓	七圓
			六圓

明治十四年 官令全書

○內務省甲號之部

○甲第壹號 一月廿九日

出版ノ權許可ノ圖書刻成前定價ニ豫定シ免許料上納候向キ有之候處自今刻成ノ上上納可致此旨布達候事(但明治九年當省甲第拾壹號布達ハ取消候事)

○甲第四號 七月四日

府縣會規則第廿一條ニ據テ職員改選ノ上其就職交替ノ手續ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ府知事縣令認可ノ上施行可致此旨布達候事
但常置委員之備モ本文同様可取計事

○甲第八號 八月十五日

明治五年(十一月)敕部省第廿五號達僧侶托鉢禁止之儀相應候條此旨布達候事
但托鉢者ハ管長ノ免許証ヲ携帯スヘシ

○甲第九號 九月十九日

明治十年第八號布告第四條但書ノ趣モ有之候處該地現今河身トナリ舟楫ノ航路トナレ
ル場所ニ於テハ本條ニヨリ無代價ノ券狀請求スルヲ得ルト雖モ杭棧打運子籐柵ヲ取設
ク其航路ヲ遮斷シ又ハ他人ノ漁業採藻等ヲ拒ムヲ得サル義ニ有之候條此旨布達候事

明治十四年 官令全書

○内務省乙號之部

○乙第一號 一月十四日 府縣(東京府ヲ除ク)

警察諸備等懲罰金之儀ハ明治九年(三月)當省乙第廿一號達ニ照準取扱フヘシ此旨相達
候事

○乙第二號 一月二十日 府縣

水産ノ盛殖ヲ謀ルハ國家經濟ノ要務ニ候處置縣以降往々舊慣ヲ變易シテ捕魚其宜ヲ失
ル爲之水族ノ蕃殖ヲ妨グ巨多ノ障礙ヲ生シ候類不少哉ニ相聞候ニ付篤ト實地取調ノ上
一層漁業ヲ保護シ水産ノ盛殖ニ注意可致此旨相達候事

○乙第三號 一月廿四日 府縣

各廳史誌編輯費ノ内地誌ニ係ル仕拂金額事業上參査ノ都合有之候條元拂勘定書十三年
度以降別紙雛形ニ準シ調製毎年度勘定決算ノ期ヨリ十日以内ニ申報スヘシ此旨相達候
事(但明治七年ヨリ全十二年ノ度迄ノ分各年度決算勘定科目ニヨリ本文雛形ニ準シ調

内務省乙號

○百卅一

製來ル三月十日ヲ限リ取束テ差出スヘシ

明治何年度史誌編輯費元拂報告書

何(府縣)

高金

史誌編輯費元

内金

前年度ヨリ送リ高

一金

本年度受入高

内

地誌編輯費仕拂高

金 金 金

属官俸給
等外俸給
備員俸給

金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 差引

外

備給
諸手當
管内旅費
管外旅費
備品
消耗品
郵便税
電信料
運搬費
賄費

但(史誌兩費ニ涉リ實際區分シ難キ分) 其一方ニ組込事由ヲ記載スヘシ

歴史編輯費仕拂分

殘金

掘置

右之通有之候也

明治何年何月何日

官苗字名印

内務卿宛

○乙第四號 一月廿九日 府縣(東京府ヲ除ク)

明治十二年(十二月)第五十號公達府縣所管經費科目表恩賜費之部死傷手當ノ細節ニ元
巡査奉職中公事ノ爲メ傷痕ヲ受ケモノハ給スルノ額トアルハ西南騷擾等ノ際鎮撫ノ
爲メ死傷セシモノハ給スル手當コシテ明治八年(一月)第三號公達警察吏員傷痕規則ノ
條款ニ依リ給與スル療治扶助吊祭料ハ從前之通警察費ヨリ支辨ス可キ筈ニ候條爲心得
此旨相達候事

○乙第五號 一月卅一日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

警察上外國人取扱規則詮議ノ次第有之ニ付將來設施スヘキモノハ勿論既ニ設施ノ分ト
雖モ至急取調更ニ當省ニ稟議可致此旨相達候事

○乙第六號 二月二日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

各地方山林官民有區別調査之末官有地ニ確定相成候山林ハ渾テ官林ニ編入可致候處若
シ編入漏等相成不取締ノ儀有之候テハ不都合候條實地林相ヲ爲シテカ箇所ハ渾テ官林
ニ編入之積無洩取調當省ニ伺出此旨相達候事

○乙第七號 二月二日 廳府縣(東京府ヲ除ク)

新聞紙雜誌雜報等從來發兌之都度二部ツ、圖書局ニ納出候處自今警保局ニ可爲納出此
旨相達候事

○乙第八號 二月四日 府縣

別紙戊第一號ノ通神佛各管長ニ相達候條爲心得此旨相達候事

戊第壹號 二月四日 神佛各管長

說教所ノ儀自今社寺外ニ設置ノ向ハ七年教部省乙第三十八號達ニ照準當省ニ出願候
義ト相心得此旨教導職ニ可相達事(但人家等借受一時執行候ハ此限コラス)

明治十四年二月四日

内務卿松方正義

○乙第九號 二月廿一日 警視廳 府 縣

獸醫取締及獸畜衛生事務之義以來勸農局ニ於テ取扱候條爲心得此旨相達候事

○乙第十號 二月廿六日 府 縣

明治十二年乙第五十五號乙第五十六號達但書中衛生課職務章程及ヒ町村衛生委員設置ノ方法并事務取扱手續等取調可伺出旨記載有之候處自今右ニ係ル事項ハ届出ノミニテ不苦候條此旨相達候事

○乙第十一號 二月廿六日 府 縣

明治九年十月當省乙第百二十五號達書左ノ通更正候條此旨相達候事

貸下ケ料及ヒ拂下ケ代徵收並ニ上納期限

一每年度半期(七月ヨリ十二月迄)月ヨリ六月迄ニ區分シ徵收及ヒ上納スル概目左ノ如シ

地所貸下ケ料

土石堀取拂下ケ代

(山林原野其他一切ノ官有地ヲ云)

(明治十年當省甲第二十一號達書ニ據ルモノヲ云)

堤塘使用料

植物拂下ケ代

動物拂下ケ代

(明治十一年當省乙第五十八號達書ニ據ルモノヲ云)
(運根松茸桑茶栲下草等ノ類年季ヲ以拂下ルモノヲ云)
(池沼生産ノ動物年季ヲ以拂下ルモノヲ云)

已上ノ代料上半期分ハ一月三十一日下半季分ハ七月三十一日迄ニ徵收シ日數十日已内ニ大藏省へ送納(收稅委員又ハ出納局へ納ムル等ハ大藏省布達ニヨルヘシ)尤貸下ケ期限ニヨリ三ヶ月又ハ一時限リ許可ノ類并運根松茸等季節ニヨリ一時ニ收獲スル類ノ如キハ右代料一時ニ徵收送納スヘシ

一其時限リ徵收シ上納スル概目左ノ如シ

(森林地官有地)木竹石等ノ拂下ケ代

枯損障碼盜伐等ノ木竹拂下ケ代及ヒ追徵金ノ類

下草水草運根樁實茶桑松茸松露晚筍竹皮等拂下ケ代ノ類

一(開港開市)場官地貸下ケ料ハ定期期限ニヨリ之ヲ徵收スヘシト雖モ該月分ハ翌月十日迄ニ取束テ上納スヘシ

總計表調製要目及ヒ進達期限

一 總計表ハ該年度ノ上納皆濟ヲ報告スル者ニシテ左ノ三種ニ區分雛形ニ準ヒ調製シ毎年八月十五日ヲ限リ附屬表取揃ヘ進達スヘシ

第一種 (森林ニ屬スル諸収入ヲ類聚ス)

第二種 (官地貸下ケ料堤塘使用料各種ノ拂代等
渾テ官有地ニ屬スル諸収入ヲ類聚ス)

第三種 (開(港市)場官地貸下ケ料外國人ヨリ徵収ニ係ルモノヲ類聚ス)

一 貸下ケ料使用料及ヒ年季拂代ハ相當年度ヘ編入スヘシト雖モ一時限リ拂下シルモノ、如キハ其經伺ノ上處分スルモノハ許可ノ年月府縣限リ處分スルモノハ其届出ノ年月ヲ以テ年度ノ分界ヲ立ツヘシ(但年度末季ニ際シ實際七月ニ至リ本人ヘ許可セシモノ及ヒ六月中ノ處分ヲ七月ニ至リ届出ル如キハ各實際處分ノ年度ヘ編入スヘシ)

○第一種 森林収入總計表

○第二種 官有地収入總計表

○第三種 官地貸下ケ料収入總計表

(右表雛形畧ス)

○乙第十二號 二月廿六日 府縣(東京府ヲ除ク)

明治十年十月當省乙第九十三號達警部巡查給與規則第十三條左之通改正増補シ來ル三月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

第十三條 警部ノ旅費、一般ノ定規ニ依ル其區内出張及ヒ巡回ハ一日金壹圓同滞在日當ハ一日金五拾錢トシ右ノ給方ハ一般ノ定規ニ依ル可シ

但各廳ニ於テ適宜減省候儀苦シカラス

○乙第十三號 三月十日 (大藏卿連名)府縣

本年第五號公布ヲ以テ地方稅規則第七條改正相成候ニ付十二年度地方稅精算之儀モ右ニ據リ本年通常會ニ報告シ然ル後兩卿ニ報告スヘシ爲心得此旨相達候事

○乙第十四號 三月十四日 府縣

今般第拾貳號公布之趣モ有之候就テハ自今蒸氣ハ拾噸風帆ハ貳拾噸以下及湖川港灣ヲ限リ運用スル船舶ハ船名噸數馬力(汽船ナラハ)等六月三十日ノ現在數ヲ記シ毎年八月

三十一日限り可届出此旨相達候事

〇乙第十五號 三月三十日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

監省雜則並ニ書記看守長以下分掌例及ヒ備人分課例別紙之通相定候條此旨相達候事

雜則

第一條 官吏備人ヲ問ハズ漫リニ在監人ト談言シ又ハ其聽得可キ所ニ於テ檢束上ニ係ルヲ辯論シ若シハ雜話等ヲ爲スヲ禁ス

第二條 授業手及ヒ押丁ヲ備フコトハ必ス保人ノ押印ヲ具セタル證書ヲ納シムヘシ但證書ハ監署ノ規則ヲ遵奉シ特ニ在監人ノ囑託ヲ受ケ他人ニ通信シ或ハ物件ノ贈答ニ媒介セサルヲ詳記セシムヘシ

第三條 官廳若クハ人民ヨリ服役ノ囚徒ヲ工事ニ備役セント求ムルコトアルトキハ便否得失ヲ考ヘ條約ヲナシテ其求ニ應スヘシ

第四條 在監人死亡シ假葬シタル遺骸ヲ改葬セント監署ニ請フ者アルトキハ之ヲ許可セ其旨ヲ警察官ニ通告スヘシ

書記看守長以下分掌例

書記

一 在監人ノ名籍ヲ調理シ囚徒ノ携有物ヲ檢収シ工業ニ關スル庶用ヲ辨シ簿計其他ノ署務ヲ分掌ス

看守長

一 看守授業手押丁ノ勤惰ヲ監督シ囚徒ノ出入増減病故及ヒ其犯則ノ有無ヲ稽查シ監房内外ノ洒掃ヲ査閲シ飲食ノ配與器具ノ點檢等ニ臨監ス

二 服役ノ囚ニ課スル工業ノ科程ヲ典獄ニ稟議シ其作業ヲ督勵ス

看守

一 晝夜交替シテ受待場ヲ巡警シ及ヒ監門ヲ守リ監外ニ押發ノ囚徒ヲ戒諭シ病囚ノ醫治ニ立會ヒ日々監中ノ器具ヲ點檢ス

二 服役ノ囚徒作業ニ關セサル他事ヲ交談シ或ハ路人ニ聲語シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ入り或ハ押丁等ヲシテ囚徒ト相狂ル、ノ狀ナカラシムルヲ要ス若シ犯ス者アル

トキハ看守長ニ具狀スヘシ

三文字ヲ書スル能ハカル囚徒ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書ス

備八分課例

教誨師

一 改過遷善ノ道ヲ講説シテ囚徒ヲ教誨ス

醫師

一 囚徒ノ疾病ヲ診察治療シ其癢篤疾若クハ重病急症ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ

典獄ニ致スヘシ

二 病囚ノ氏名病性徵候治否及ヒ處方ハ調治簿ニ詳記スヘシ

三 毎朝一次各監ヲ巡リ囚徒ノ飲食衣類ヲ看視シ健康ニ害アリト認ル事アルトキハ改

頁ノ意見ヲ典獄ニ具狀スヘシ

四 囚診察手術ヲ施ストキハ病者ニ向テ攝生ノ方法ヲ示スヘシ

授業手

一 服役ノ囚徒ニ農業工藝等ヲ教ヘシム

押丁

一 囚徒監房出入ノ際其身體衣服ヲ搜檢シ服役者ヲ督使シ控繩戒護等ニ従事ス

女監取締

一 女監ヲ監視シ婦女入監ノ際ハ典獄ノ臨監ヲ得テ其身體衣服ヲ搜檢ス

二 飲食ヲ配與シ及ヒ女囚ノ作業ヲ督勵ス

○乙第十六號 三月三十日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク) 集治監

今般第十四號第十五號ヲ以テ司獄官吏名稱被定候ニ付該官吏及ヒ備人ノ儀ハ別紙程度ニ照シ設置候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

司獄官吏備人設置程度

判任官 在監人二百人以下五名ヲ置ク以上ハ百五十人毎ニ壹名ヲ増ス

看守 在監人十五人ニ壹名ヲ置ク

教誨師 人員俸金適宜

醫師 人員俸金適宜

授業手 人員俸給適宜

押丁 在監人十八ニ壹名キ置キ俸金ハ八圓以下ヲ以テ月給又ハ日給トナス

女監取締 行狀善良ニシテ四十歳以上若クハ司獄官吏ノ婦女ヲ選ニ在監人二十人ニ壹

名ヲ置キ俸金ハ拾五圓以下ヲ以テ月給又ハ日給トナス

○乙第十七號 三月三十日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク) 集治監

監獄署押丁給與品左之通相定候條此旨相達候事

押丁給與品

- 一笠 頭 晴雨 共用
- 一筒袖法被 色 紺地 質 木綿
- 一股引 同上
- 一雨衣 桐油 色 黒
- 一縛繩

一手帖

一呼子笛

○乙第十八號 四月十一日 府縣(東京府ヲ除ク)

巡查並警察諸備等懲罰金巡査還納被服類及警察本分署不用品賣却代處分方之義付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相達候處右ハ相廢候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ニ可仕拂此旨相達候事

但十三年當省乙第四十六號達中賣淫罰金ノ項ヲ除ノ外ハ總テ廢止ト心得

○乙第十九號 四月十四日 府 縣

明治八年敎部省第三十九號達自今廢止候條此旨相達候事(但明治十二年當省乙第三十三號達社寺員數表中合併欄内存名廢名ノ區別ハ削除候儀ト可相心得事

○乙第二十號 四月十五日 府 縣

府縣會議員撰舉被撰舉權ヲ有スル人員及ヒ區町村協議費(區町村會及ヒ水利土功會)於テ議定シタル經費ノ決算書ヲ云)トモ左之書式ニ準テ取調毎年十二月限り指出スベ

此旨相達候事(十四年乙六十號ヲ以書式改)
正ニ付舊文之ヲ零ス

但シ人員ハ三月ノ現員協議費ハ前年度ノ分タルヘシ

○乙第二十一號 四月十五日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

本年第十七號第十八號ヲ以テ看守被服及ヒ帶釵之義御達相成候ニ付テハ被服ハ適宜保
存期限ヲ定メ給與シ帶釵ハ貸與候義ト可相心得此旨相達候事

○乙第二十二號 四月十八日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡査ノ配置ヲ請願スル者
ハ自今開屆請願ノ場所ヘ配置不苦候條該費收支方ハ國庫下渡金地方稅等ニ連帶セス別
ニ其帳簿ヲ調製シ毎年地方稅収出精算書ト同時ニ報告スヘシ此旨相達候事
但本文配置ノ巡査ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之權取計ヲ可

○乙第二十三號 四月十九日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年第拾六號公布第一條第二條ニ屬スル國庫ヨリ下渡金高取調ノ都合有之ニ付十四年
度以降警察費ノ内地方稅ヨリ支出スヘシ豫算金額其(府縣)會ニ於テ議決認可次第左ノ

ニ照準至急當答ヘ可届出此旨相達候事(十五年乙第五拾六號)
達ヲ以テ廢止

○乙第二十四號 四月廿三日 警視廳 府縣 集治監

明治十二年(三月)當省乙第十二號國事犯滿期放免ノ者復籍遞送方達但書増補及ヒ賄料
支拂共左之通可心得此旨相達候事(但本人他ノ地方ヘ寄留轉籍ヲ願フ者(及ヒ縁故ア
ル者)引取ヘ上歸鄉スル者)ハ自費タルヘシ

一遞送途中ノ賄料ハ各地最下等ノ費額ヲ以テ其沿道地方廳ニ於テ支拂フ可シ

但草鞋代及ヒ船賃橋錢等雜費ハ別ニ給與スヘシ

一遞送中ニ若シ疾病事故等ニ係ル諸費モ沿道地方廳ニ於テ支拂フヘシ

但最寄戸長ノ証書ニ依ル可シ

一便宜ニ由リ海路遞送スルトキハ船待滯留中ノ賄料並ニ船賃ハ發船ノ地及ヒ船繼スル
每地方廳ニ於テ支拂フヘシ

○乙第二十五號 四月三十日 府 縣

本年(四月)太政官第三十二號公布相成候ニ付テハ明治十年(三月)當省乙第三十二號達

賣藥取扱手續申請賣鑑札料及ヒ行商鑑札料ノ兼并行商鑑札製作費云々ノ一項削除候條
更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相違候事

一賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルルハ本年府縣會於テ其稅額ヲ議定シ十四年
度ヨリ徵収スヘシ

一請賣鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前雛形ノ通製造ス
ヘシ(但大藏省ヨリ下附セシ鑑札所持ノモノハ別段引替ニ及ハヌ且ツ本年分豫算
ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省ニ返納スヘシ

一請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之等ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ傳ハリ
調製候向モ有之候ハ、改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付速ニ調製
相止メ更ニ賣藥營業爲願出候機取計フヘシ

○乙第二十六號 五月二日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)集治監

國事犯竝ニ常事犯及ヒ陸軍裁判所ヨリ發配シタル準流徒刑等ニシテ現今監獄ニ在ル者
ノ名數別紙第一第二書式ニ照シ取調往復ヲ除クノ外日數十五日限リ當省ニ可差出此旨

相違候事(但國事犯ニ係ル懲役禁獄竝ニ陸軍裁判所ヨリ發配シタル準流徒刑ノ者放免
死亡又ハ減等ヲ受タル者有之節ハ今後必ス其時々届出ヘシ

第一號 書式 明治何年月日現在

國事犯ニテ現ニ處刑中ノ者

何(府縣)族籍

何 某

年 齡

明治何年月日申渡

鹿兒島又ハ熊本佐賀山口等ニ於テ何ノ暴舉ニ與リ何々ノ科ニ依リ
懲役何年

若シ特典減等々ノ處分ヲ經シ者ハ何年月日何等ヲ減シ何年ニ處セラレシヲ記入
ス可シ

何(府縣)族籍

何 某 年 齡

明治何年月日申渡

何某ト謀リ何々ノ企テ爲シタル等ノ科ニヨリ

懲役何年

若シ特典減等々ノ處分ヲ經シ者ハ前同様記入スヘシ

何(府縣)族籍

何 某

年 齡

明治何年申渡

鹿兒島又ハ熊本佐賀山口等ニ於テ何ノ暴舉ニ與シ何々ノ科ニ依リ

禁獄何年

若シ特典減等々ノ處分ヲ經シ者ハ前同様記入スヘシ

何(府縣)族籍

何 某

年 齡

明治何年月日申渡

何某ト謀リ何々ノ企テ爲シタル等ノ科ニ依リ

禁獄何年

若シ特典減等々ノ處分ヲ經シ者ハ前同様記入スヘシ

新聞條例其他ノ罪ニ依リ禁獄ニ處セラレ現ニ處刑中ノ者

何(府縣)族籍

何 某

年 齡

明治何年月日申渡

新聞條例第何條ニ依リ

禁獄何年

常律ニ依リ處刑ヲ受ケ現ニ懲役ニ在ル者

一懲役一年以上

何人

一同五年以上

何人

一同終身

何人

總計何人

第二號 書式 明治何年月日現在

陸軍裁判所ニ於テ處刑ヲ受ケ發配セラレ現ニ獄ニ在ル者

何(府縣)族籍

何 某

年 齡

明治何年月日申渡

準流何年

若シ特典減等々ノ處分ヲ經シ者ハ何年月日何等ヲ減シ何年ニ處セラレヨリテ記入
ス可シ

何(府縣)族籍

何 某

年 齡

明治何年月日申渡

徒刑何年

若シ特典減等々ノ處分ヲ經シ者ハ前同様記入スヘシ

○乙第二十七號 五月五日 (大藏卿連名) 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十三年(二月)乙第九號內務大藏兩省地方稅徵收及地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ
豫算精算順序並書式等別冊之通改正候條此旨相達候事

地方稅豫算及精算順序

第一條 明治十三年第十六號第十七號布告ニ基キ內務大藏兩卿ニ差出スヘキ地方稅徵

収及該稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及精算報告書ハ下條ノ順序ニ遵ヒ調製ス可シ

第二條 國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スル費項ハ警察費（本年第十六號布告第三條ニ屬スル諸費ハ之ヲ除ク）ニ限ル可シ

第三條 國庫下渡金ハ本年第十六號布告ノ制限ニ基キ從前ノ交付期程ニ據リ大藏省ヨリ下渡ス可シ

第四條 豫算調製順序ヲ示ス左ノ如シ

第一節 第一號書式ニ據リ本年度収入支出ノ豫算額ヲ表出シ前年度豫算ニ對比シ其多寡増加アルモノハ各科目ニ就キ稅目ノ取捨事業ノ興廢等詳細ニ其事由ヲ説明シ之ニ添フルニ豫算金額ノ仕譯書ヲ以テス可シ

第二節 前々年度ニ於テ殘餘金アレハ之ヲ本年度ノ収入トナシテ以テ一科目（即チ前々年度ヨリ繰越金）ヲ掲クヘシ若シ又前年度ニ於テ前々年度ニ繰替金アレハ該金員ヲ償戻スルカ爲メ本年度ノ支出ニ一費項（即チ前々年度ニ補充金）ヲ設ク可シ

第三節 各種稅ノ内賦課ノ都合ニ因リ支出總額ニ對シ計算上自然剩餘ヲ生スルコト

レハ之ヲ豫備費ニ併算ス可シ

第四節 通常豫算確定ノ後非常ノ費用ヲ要スルコトアルトキハ第一號書式ノ内金額仕譯書ニ準シ其費用及賦課ノ稅目等ヲ詳記シ更ニ報告ノ順序ヲナス可シ

但要求ノ事由ハ其申報書ニ詳明記載スヘシ

第五節 政府ノ許可ヲ得テ特別ニ課稅スルモノハ他ノ書式ニ倣ヒ特別課稅ノ目ヲ設ケ採算稅ノ次キニ編入ス可シ

第六節 雜收入ノ目ニ於テハ郡區吏員巡查看守等ノ罰俸及ヒ監獄ノ規則ニ依リ沒収シタル貨物又ハ枯損木代（官林ヲ除ク）或ハ學校ノ授業料診察料用品并ニ地券用紙ノ故紙賣却代懲役人傭工錢（滿期付與金ヲ引去リタルモノヲ云フ）等ヲ編入シ一般ノ地方費ニ支出ス可シ

第七節 毎歲豫算報告ニ際シ會議ニ付シタル議案及修正ノ説明書ヲ副ニ差出ス可シ

第五條 精算調製順序ヲ示ス左ノ如シ

第一節 第二號書式ニ據リ本年度収出ノ精算額及豫算額ヲ表出シ精算ヲ以テ豫算ニ

對比シ其多寡増減アルモノハ各科目ニ就キ詳細其事由ヲ説明シ之ニ添フルニ精算金額ノ仕譯書ヲ以テス可シ

第二節 精算比較ノ豫算額ハ前條第四節ノ追加アルモ最初ノ儘據置キ報告書中ニ於テ其増加セシ事由ヲ陳辨ス可シ

第三節 甲年度ノ精算ニ於テ殘餘(即チ翌々年度ニ繰越高)アルトキハ假コ乙年度ニ預ケ之ヲ丙年度ノ収入トナス可シ

第四節 前節ニ反シ甲年度ノ實費ニ不足ヲ生スルトキハ乙年度ヨリ繰替(即チ翌年度ヨリ繰替高)精算ヲ了ス可シ而テ右繰替ノ金額ハ丙年度ニ於テ乙年度ニ償還スヘキモノトス

第五節 豫備費ハ収出スル所ノ各費目ニ編入スヘキカ故ニ精算ニ至テハ本科目ニ金員ノ掲出ナキヲ則トス

地方費科目

一警察費

一衛生及病院費

衛生費

俸給

病院費

一土木費

諸費

一教育費

治水費

師範學校費

道路費

女子師範學校費

橋梁費

中學校費

區町村土木補助費

向學校費

通常會議諸費

區町村立學校補助費

常置委員諸費

一郡(區)廳舍建築修繕費

新營費

新營費

修繕費

修繕費

一郡(區)吏員給料旅費及廳中諸費

一府(縣)監獄費

一教育費

獄署諸費

一浦役場及難破船諸費

未決人諸費

一 管内限諸違書及揭示諸費
 一 勸業費
 農 業 費
 工 業 費
 商 業 費
 博 物 費
 一 戶長以下給料及戶長職務取扱諸費
 一 府(縣)廳舎建築修繕費

己決人諸費
 一 府(縣)監獄建築修繕費
 新 營 費
 修 繕 費
 一 地方稅取扱費
 一 豫備費
 (費途ノ有無實際ニ就キ取捨ス可シ)

○用紙美濃野紙

自明治何年七月
 至同 何年六月

明治何年度地方稅豫算報告書

(第壹號)

何府(縣)

○印ハ朱書

明治何年度地方稅収出豫算報告書

收入ノ部

本年度豫算ノ收入總額ハ若干圓ニシテ前年度ノ豫算總額ニ對比スレハ若干圓ヲ超過(減少)セリ因テ兩年度各科目ノ金額ヲ表出シ次テ其増減ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

收入科目	本 年 度	前 年 度	比 較	
			増	減
地租三分一以内				
營業稅				
雜種稅				
漁業稅				
探業稅				
戶數割				
國庫下汲金				
寄附金				
雜收入				
前々年繰越金				
合計				
差引超過(減少)				

(何税) 此豫算ノ金額ヲ以テ前年度ノ豫算ニ比シ若干圓ノ超過アルハ何々ノ事故ニ因リ某税若干圓ト何々ノ事故ニ因リ某税若干圓トヲ増加セシム由ル

(何税) 此豫算ノ金額ヲ以テ前年度ノ豫算ニ比シ若干圓ノ超過アルハ某税ニ於テ何々ノ事故アリテ若干圓ヲ減少スト雖モ某税ノ如キハ何々ノ事故ニ由リ若干圓ヲ増加ス因テ之ヲ對比計算スレハ前記ノ超過ヲ生ス

(何々) (前例ニ倣フ)

以上超過ノ通計ハ若干圓ナリ

(何税) (減少ノ事由ヲ詳記スル超過ノ例ニ倣フ以下之ニ全ク)

(何々)

以上減少ノ通計ハ若干圓ナリ因テ前段ノ超過額ヨリ此減少額ヨリ前段ノ超過額ヲ扣除スレハ頭初ニ掲記セシ如ク若干圓ノ超過(減少)ヲ生スルナリ

支出ノ部

本年度豫算ノ支出總額ハ若干圓ニシテ前年度ノ豫算總額ニ對比スレハ若干圓ヲ超過(減少)セリ因テ兩年度各科目ノ金額ヲ表出シ次テ其増減ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

支出科目	本年度		前年度		増比	減較
	金額	備考	金額	備考		
警察費						
土木費						
府(縣)會議諸費						
衛生及病院費						
教育費						
郡(區)廳舍建築修繕費						
郡(區)吏員給料旅費及廳中諸費						
救育費補設場及難破船諸費						
管内限諸達書及揭示諸費						

勘 業 費										
戸長以下給料及戸長職務取扱諸費										
府(縣)廳舎建築修繕										
府(縣)監獄費										
府(縣)監獄建築修繕費										
地方稅取扱費										
豫 備 費										
前々年度~補充金										
合 計										

差引超過(減少)

(何費) (超過ノ事由ヲ詳記スルコト收入ノ部ニ準ス以下之ニ做フ)

(何々)

以上超過ノ通計ハ若干圓ナリ

(何費) (減少ノ事由ヲ詳記スル超過ノ例ニ做フ以下全マ)

(何々)

以上減少ノ通計若干圓ナリ (以下收入ノ部ニ全マ)

本年度ノ豫算ハ前ニ掲載セル如ク收入ト支出ト其金額ヲ全スト雖モ收入中前々年度ノ繰越金ヲ扣除シテ之ヲ對比計算スルハ收入實額ノ支出額(支出中前々年度ニ補充ノ金額ヲ扣除シテ之ヲ對比計算スルハ支出實額ノ収入額)ヨリ減少スルコト若干圓ナリ

何年度地方稅収出豫算額ノ仕譯書

收入ノ部

一金 地租三分一以内

前年度地租豫算額若干圓金一圓ニ付何錢何厘

一金 營業稅

金 仲 買 商

內

金 何々

内譯

金 會社 稅

内 { 課額ノ別アルニ從ヒ左ノ例ニ準シ内書ヲ分帳スヘシ以下之ニ倣フ }

金 一社年額(月額)若干圓計若干社

金 何々

金 卸賣商

内

金 何々

一金 雜種 稅

内譯

金 製造所職工 稅

内

金 何々

金 小賣商

内

金 何々

金 何々

金 雜商

内

金 何々

金 車 稅

内

金 何々

金 但全上

金 何々

但全上

金 市場 稅

内

金 何々

但工ノ高若干圓ノ何分

金 何々

但全上

金 演劇 稅

金 何々

但全上

金 何々

但全上

金 遊技場 稅

製造所一ヶ所年額(月額)若干圓計何ヶ所

職工一人年額(月額)若干圓計何人

金 船 稅

内

金 何々

但國稅ノ何分

金 何々

但全上

内

金 何々

但全上

金 何々

但全上

一金 警察費
 ○内
 ○金 地方稅
 ○金 國庫下渡金
 内譯
 金 俸給
 金 諸費
 一金 土木費
 内譯
 金 治水費
 金 道路費
 金 橋梁費
 金 區町村土木補助費

一金 府(縣)會議諸費
 内譯
 金 通常會議諸費
 金 常置委員諸費
 一金 衛生及病院費
 内譯
 金 衛生費
 金 病院費
 一金 教育費
 内譯
 金 師範學校費
 金 女子師範學校費
 金 中學校費
 金 何學校費

一金 區町村立學校補助費
 郡(區)廳舍建築修繕費
 内譯
 金 新營費
 金 修繕費
 (以下各科目ヲ記載スルノ順
 次ハ地方費科目ニ據ルヘシ)
 一金 豫備費
 一金 前々年度ニ補充金
 合計金
 内
 金 警察費
 内
 金 國庫下渡金

金 土木費
 府(縣)會議諸費
 衛生及病院費
 教育費
 郡(區)廳舍建築修繕費
 郡(區)吏員給料旅費
 及廳中諸費
 救育費
 浦役場及難破船諸費
 管内限諸達書及揭示
 諸費
 勸業費
 戸長以下給料及戸長
 職務取扱諸費
 地方稅取扱費
 府(縣)廳舍建築修繕費

金 府(縣)監獄費
 金 府(縣)監獄建築
 修繕費
 金 豫備費

金 前々年度へ充補金
 出比較過不足ナシ

○用紙美濃野紙

自明治何年七月

至同 何年六月

明治何年度地方稅精算報告書

何府(縣)

○(第二號)

○印ハ朱書

明治何年度地方稅収出精算報告書

收入ノ部

本年度精算ノ收入總額ハ若干圓ニシテ之ヲ以テ其豫算ニ比スレハ若干圓ヲ超過(減少)セリ因テ各科目ノ金額ヲ表出シ次テ其増減ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

收入科目	精算	高	豫算	高	比	
					増	減
地租三分一以内						
營業種稅						
雜業種稅						
漁業稅						
探業稅						
戶數割						
國庫下渡金						
寄附金						
雜入						
前々年度繰越金						
合計						
差引超過(減少)						
翌年度繰替高						

(何稅) 此精算ノ金額ヲ以テ其豫算ニ比シ若干圓ノ超過アルハ何々ノ事故ニ由リ其稅若干圓ト何々ノ事故ニ由リ其稅若干圓ト增加セシム由ル

(何稅) (豫算報告ノ例ニ倣フ以下之ニ全シ)

(何々)

以上超過ノ通計ハ若干圓ナリ

(何税)ノ減少ノ事由ヲ詳記スル超過ノ例ニ倣フ以下之ニ全シ

(何々)

以上減少ノ通計若干圓ナリ(以下豫算報告ノ例ニ倣フ)

支出ノ部

本年度精算ノ支出總額ハ若干圓ニシテ之ヲ以テ其豫算ニ比スレハ若干圓ヲ超過(減少)セリ因テ各科目ノ金額ヲ表出シ次テ其増減ノ理由ヲ説明スル左ノ如ク

支出科目	精算高	豫算高	比	
			増	減
警察費				
土木費				
府(縣)會議諸費				

衛生及病院費										
教育費										
郡(區)廳舎建築修繕費										
郡(區)吏員給料旅費及廳中諸費										
救育費浦役場及難破船諸費										
管内限費達書及揭示諸諸										
勸業費										
戸長以下給料及戸長職務取扱諸費										
府(縣)廳舎建築修繕費										
府(縣)監獄費										
府(縣)監獄建築修繕費										
地方稅取扱費										

豫備費	○																			
前々年度補充金																				○
合計																				○

差引超過(減少)

翌々年度繰替高

(何費) (渾テ前例ニ倣フ以下全シ)

(何々)

以上超過云々

(何費)

(何々)

以上減少云々

本年度精算ノ収入総額ハ若干圓ニシテ其支出総額ハ若干圓ナルニ由リ収入超過ノ額即チ其殘贏金ハ若干圓(翌々年度ニ繰越高ニ吻合ス)支出超過ノ額即チ其不足金ハ若干圓

(翌年度ニ繰替高ニ吻合ス)ナリ因テ又収入中前々年度ノ繰越高ヲ扣除シテ之ヲ對比計算スレハ収入實額ノ支出額(支出中前々年度ニ補充高ヲ扣除シテ之ヲ對比計算スレハ支出實額ノ収入額)ヨリ減少(超過)スルコト若干圓ナリ

何年度地方税収出精算額ノ仕譯書

収入ノ部

○豫算金

一金 地租三分一以内

○外

○金 何々ノ事故 以下諸税
 ○ニ依リ収入 共之ニ倣フ
 不足高

○豫算金

一金 營業税

内譯

○金

金 何税
 内 (課額ノ別アルニ從ヒ左ノ例)
 ニ準シ内書ヲ分載スヘシ
 一社年額(月額)若干
 圓計若干社

金 何々

○金

金 何税

内

金 何々

金 何々

○豫算金

金 何々

金 前々年度へ補充金

金 即ち収入殘餘
ノ金肩ヲ掲ク

翌々年度へ繰越高

外

○乙第二十八號 五月十六日 府縣(東京府ヲ除ク)

明治十年乙第九十三號達警部巡查給與規則中追加

○乙第二十九號 六月四日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

暴發物(「タイナマイト」ノ類)ハ當分銃砲取締規則及火藥運搬規則ニ準シ取扱フヘシ此旨相事候事

○乙第三十號 六月廿二日 府縣

御國人民不慮ノ困難ニ遭ヒ外國人ノ救助ヲ受候節謝儀等ノ儀各國公使或ハ其本國政府ヲ經由シ兩國交際ノ要務ニ關スル事柄ハ外務省ニ於テ取扱又官民居留地ノ外國人ヨリ自己ノ恩惠ヲ與エ候節謝儀褒賞ノ儀ハ當省ニ於テ取扱候條右區別ニ依リ其都度事由ヲ具シ主管ノ省ニ可申出此旨相達候事(但明治七年當省乙第八十三號達ハ取消候事)

○乙第三十一號 七月九日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)集治監

本年第十七號公達ヲ以テ看守長及看守ノ服制被定候處自今夏季ニ限リ便宜白色服相用不苦候條此旨爲心得相達候事

○乙第三十二號 七月十三日 府縣

明治十二年十二月當省乙第五十六號ヲ以テ相達候町村衛生委員撰舉之儀ハ自今地方ノ便宜ニ從ヒ町村會ニ於テ公撰セムルモ不苦候條此旨相達候事

○乙第三十三號 七月廿一日 府縣

各管内社寺惣代人ノ儀氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戸長役場へ届山サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ可爲差出且社寺収入財産ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)其共有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサシ機取調方可爲致此旨相達候事(但神宮官國幣社ハ非此限)

○乙第三十四號 七月廿一日(大藏卿連名) 警視廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)集治監

本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可
心得此旨相達候事

一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金ト地方税金トハ混一ニテ諸費(懲役人ノ諸費并
ニ看守俸給押丁女監取締教誨師醫師授業手等ノ備給及ヒ看守押丁賄料被服費)ヲ仕
賄置每一ケ月ニ乘員ノ延數ニ照シ平均シテ一囚若シテノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期
終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取
計事(十四年乙四十二號) (但臨時加給療養費埋葬費寫真費移轉費ノ如キ惣囚ニ關シ
タル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スベシ
一府縣獄ニ入ルベキ囚徒ニシテ集治監ニ在レモノ、經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出
方可取計事

○乙第三十五號 七月廿九日 府縣

堤塘使用料及ビ並木敷貸渡料ノ儀ハ從來雜收入トシテ大藏省へ上納致シ來リ候處十四
年度以後ハ地方稅ニ合セ土木費ニ使用スベシ此旨相達候事

○乙第三十六號 八月三日 府縣

明治十一年(十二月)當省乙第八十二號達中左ノ一項追加候條此旨相達候事

一郡區長郡區書記經濟ヲ異ニスル郡區又ハ他府縣ノ郡區ニ轉任スル者ノ滿年賜金モ亦
前項ニ同シ

○乙第三十七號 八月十三日 府縣

十年九月當省乙第八十七號達中(豫備金ノ内ヲ以テ仕拂置追テ三ケ月分取廻メ)ノ二十
字ヲ刪除代價ノ下へ(一ケ年金額概算高見積四分ノ一假ニ請取置毎月正算書翌月五日
迄ニ其地差立)ノ三十四字ヲ加ヘ候條此旨相達候事

○乙第三十八號 八月十五日 府縣

今般戊第二號ヲ以テ佛道各管長へ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托
鉢差止願末詳細取調當省へ可申出此旨相達候事
戊第二號佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶

(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出
此旨相達候事

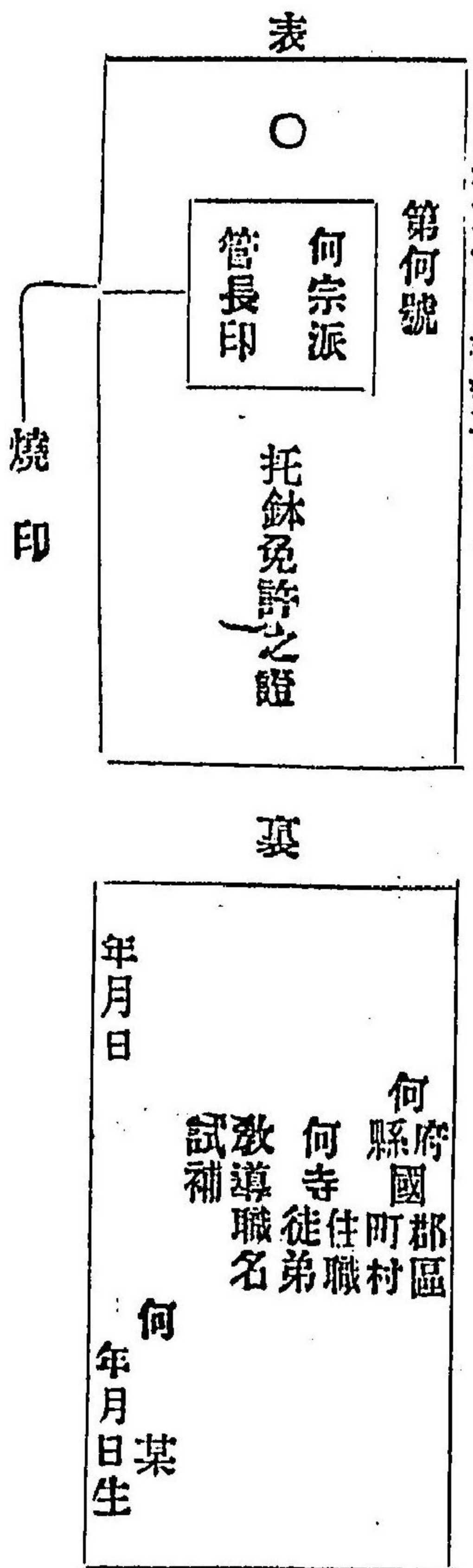
托鉢免許方并托鉢者心得

- 一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳へ通知シ東京ハ警視廳へモ通知スヘシ
- 一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス
但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
- 一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帯シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルコアラサレハ人家ニ接近シ濫リロ歩ヲ駐ムヘカラズ且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞テ許サス
- 一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨グヘカラス
- 一 免許證ハ何時ヲリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標牌雛形

木製

縦六寸 横貳寸



○乙第三十九號 八月十七日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)集治監

未已決囚入監ノ際表體ヲ搜檢シ隱蔽物ヲ防クハ勿論ニ候得共若シ入監後金錢物品等隱
ニ所持スル者有之時ハ獄則ニ依リ相當處分之上其金品(贓ニ係ルモノヲ除ク)悉ク沒
収スル義ト心得ヘシ此旨相達候事

○乙第四拾號 八月廿三日 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

今般第四拾號ヲ以テ石油取締ノ義公布相成候ニ付テハ油質檢査手續及ヒ其他取締細則

取設當省へ可届出此旨相達候事

○乙第四十一號 九月一日 警視廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年第拾七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ニ
リ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等單テ當省へ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治
監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○乙第四十二號 九月一日 警視廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)集治監

本年乙第三十四號達中三十五字追加

○乙第四十三號 九月八日 府 縣

明治十一年當省乙第七拾號達賣藥取扱手續未項刪除候條此旨相達候事

但十二年乙第五十五號達衛生課事務條項第六條中賣藥ノ件ハ從前ノ通り心得ヘキ事

○乙第四十四號 九月十四日 府 縣

濟貧恤窮施行濟届方書式之儀客年乙第四十三號ヲ以相達候處別紙之通改正候條此旨
相達候事(但死亡其他ノ事故ニヨリ救助差止候モノハ以後不及届出候事)

濟貧恤窮施行濟届

事	由	米	額	米	價	人	員
癩	疾	何	石	何	圓	何人	男何人 女何人
幼	弱	同		同		同	
老	衰	同		同		同	
疾	病	同		同		同	
通	計	同		同		同	本年度分何人 前年度分引續施行ノ分何人
死亡其他事故ニヨリ救助差止タルモノ						何人	男何人 女何人
現在人員						何人	男何人 女何人

右ハ客年七月ヨリ本年六月マテ濟貧恤窮施行濟ノ分云々

年月日

何(府縣)知事令名印

○乙第四十五號 九月廿八日 府 縣

難破船舶費用償還方ノ儀別紙之通米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候事
日本帝國ト米利堅合衆國ト俱コ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ
當リテ支出ス可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特テ結フ
ニ決意シ其全權委員トシテ日本國

皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國

大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使シヨノ、エー、ビンハムナ之ニ任シ互
其委任狀ヲ相示シ其式ノ善良適切ナルヲ認メテ訂約スルコト左列ノ如シ

凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ窮民ヲ救ヒ之ニ衣食ニ之ニ旅費ヲ給シ若シハ溺者ノ遺
骸ヲ收得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フノ力ナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若シハ死者埋葬等
ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ償還スヘシ又合
衆國市民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ハ合衆國政府宜シク
上ト同様ノ手續ニ遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ將ク合衆國政府ニ於テモ難破
船乃至其船中ノ貨財ヲ收回保存スルコト方リテ支出シタル費用ニ至テハ之ヲ償還スル

ノ責任ナカルヘシ凡テ這樣ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲシ
テ該貨財引取ノ上償還セシムル者トス

日本政府ニ於テモ將ク合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警
察吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若クハ公信往復ノ費用ノ之ヲ
取立サルヘシ

此種ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス

此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓
府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ越ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス

此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ
記シ印ヲ鈐ス

東京ニ於テ

明治十三年五月十七日

井 上

馨 (印)

西曆千八百八十年五月十七日

ワロン、エー、ビンハム印

○乙第四十六號 九月廿八日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

堤塘使用料之儀。就テハ明治十一年(九月)乙第五拾八號及本年(七月)乙第三十五號ヲ以テ相違候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村ニ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤連帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方ニ可屬此旨相違候事

○乙第四拾七號 九月廿九日 府縣

河港道路橋梁工費一村限金高帳總計帳勘定帳書式ノ義去十年二月乙第十三號ヲ以相違候處去十三年第四十八號ヲ以官費下渡金被廢止候ニ付更ニ別冊書式ノ通改正候條十四年度以後(則十四年七月以後)右書式ニ照準シ工費金高及總計報告書共一週歲毎年度ニ整理シ其年十二月三十一日迄ニ當省ニ可差出此旨相違候事(但各開港及外國人居留地修築工費其他官費支給有之分ハ落成ノ時々遂正算候儀ト可相心得事)

明治何年度

(用紙通常對紙正副貳通可差出)

(原書ノ朱字ハ上下ニ括弧印ヲ以テ之ヲ分ツ以下做之)

河港道路橋梁其他修築工費總計帳

府縣

一金	
金	地方稅
內金	協議費
金	篤志金
此譯	
金	河川工費
金	何川流域工費
內金	地方稅
金	協議費

金

何川流域工費

內

金

地方稅

金

內

協議費

(幾流域有モ此例ニ倣フ)

金

港灣工費

內

金

何港工費

內

金

地方稅

金

協議費

金

向港工費

內

金

地方稅

金

協議費

金

汐除工費

內

金

地方稅

內

金

協議費

金

道路工費

內(國縣里道確定候迄。上國縣道見込ト可書職)

金

假。國道工費

內

金

地方稅

內

金

協議費

金

假。縣道工費

內

金

地方稅

金

協議費